5.1 ch サラウンドシステム

HTP-S737
HTP-S333

フロントサラウンドシステム

HTP-S535
HTP-SB510

インターネットによるお客様登録のお願い

http://pioneer.jp/support/

このたびは、パイオニア製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。なお、上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

取扱説明書

もくじ

このたびは、パイオニア製品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。本機の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」（86 ページ）は必ずお読みください。なお､「取扱説明書」は「保証書」と一緒に必ず保管してください。

準備

設置と接続

基本設定と操作

iPod/USB

サラウンド再生

応用設定

リモコン

困ったとき

付録

付属品を確認する

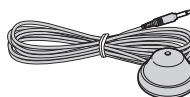
レシーバーサブウーファー部の付属品（共通）

リモコン × 1

単 4 形乾電池 × 2

ビデオケーブル × 1

光デジタルケーブル × 1

FM 簡易アンテナ × 1

MCACC セットアップ用マイク × 1

滑り止めパッド（大）
（レシーバーサブウーファー用）× 4

保証書

取扱説明書（本書）

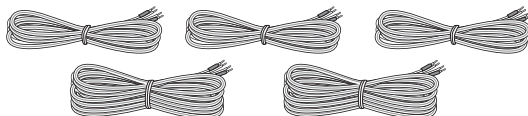
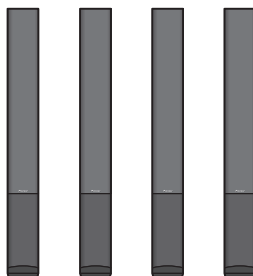
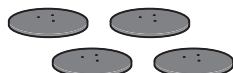
かんたんセットアップガイド

HTP-S737 スピーカー部の付属品

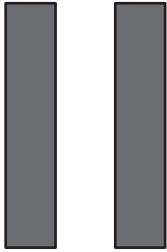
センタースピーカー × 1

フロント / サラウンドスピーカー × 4

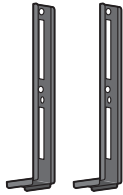
スピーカーベース × 4

スピーカーコード
4 m/ 赤色（フロントスピーカー右用）× 1
4 m/ 白色（フロントスピーカー左用）× 1
3 m/ 緑色（センタースピーカー用）× 1
10 m/ 灰色（サラウンドスピーカー右用）× 1
10 m/ 青色（サラウンドスピーカー左用）× 1

ネジ × 12

滑り止めパッド（小）
（スピーカーベース用）× 16

HTP-S535 スピーカー部の付属品

フロントスピーカー ×2

パッキン ×2

スピーカーコード
4 m/ 赤色（フロントスピーカー右用）× 1
4 m/ 白色（フロントスピーカー左用）× 1

ポール ×2

スピーカーベース ×2

ネジ（小 / ポール固定用）× 8

ネジ（大 / スピーカー固定用）× 4

HTP-S333 スピーカー部の付属品

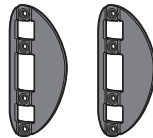
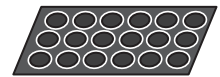
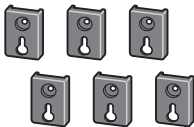
フロントスピーカー × 2

センタースピーカー × 2

サラウンドスピーカー × 2

壁掛け用ブラケット × 6

スピーカーコード
4 m/ 赤色（フロントスピーカー右用）× 1
4 m/ 白色（フロントスピーカー左用）× 1
3 m/ 緑色（センタースピーカー用 / 分岐タイプ）×1
10 m/ 灰色（サラウンドスピーカー右用）× 1
10 m/ 青色（サラウンドスピーカー左用）× 1

連結用ブラケット × 2

滑り止めパッド（小）
（スピーカー用）× 18

ネジ × 8

HTP-SB510 スピーカー部の付属品

スピーカー ×1

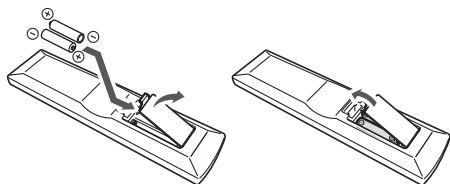
スピーカーコード × 1

ネジ × 2

スピーカースタンド ×2

滑り止めパッド（小）
（スピーカー / スピーカースタンド用）× 10

リモコンについて

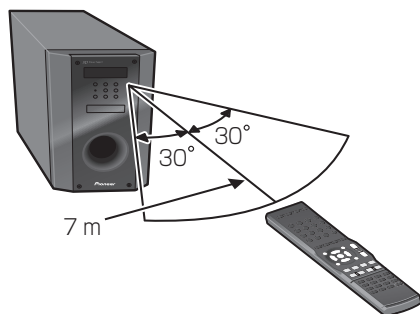
リモコンに電池を入れる

⚠警告

- 電池を直射日光の強いところや、炎天下の車内・ストーブの前などの高温の場所で使用・放置しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂、発火の原因になります。また、電池の性能や寿命が低下することがあります。

ご注意

- 乾電池のプラス (+) とマイナス (−) の向きを、電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池には同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間（1 か月以上）使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

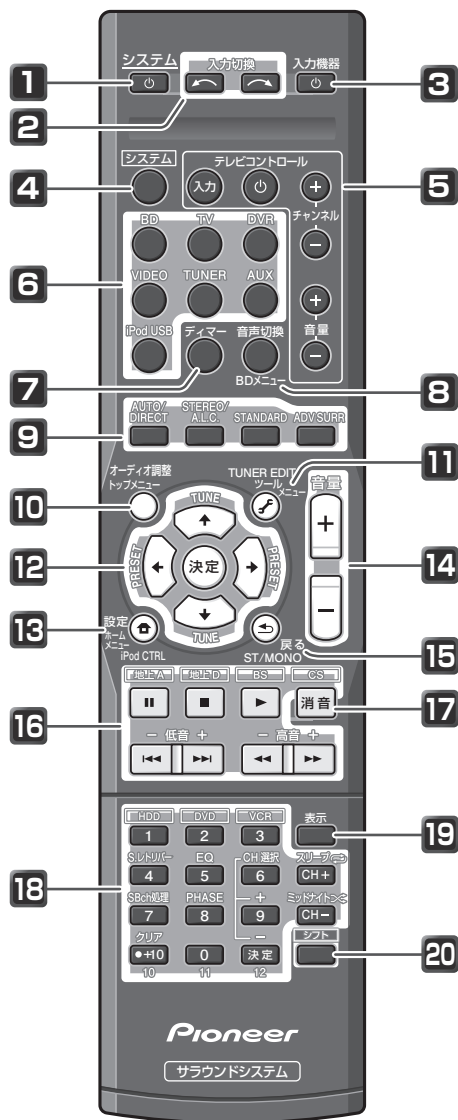
リモコンの操作範囲

リモコンは、レシーバーサブウーファーのリモコン受光部から約 7 m、左右 30°以内の範囲から操作してください。

お知らせ

- 直射日光や蛍光灯の強い光が直接リモコン受光部に当たると、リモコン操作できないことがあります。そのようなときは、設置場所を変えるか、蛍光灯から離してください。

各部の名前とはたらき

リモコン

* が付いているボタンは、マルチコントロールボタンで操作する機器を選択したときに使用できます。

1　⏻ システム
本機の電源をオン / オフ (スタンバイ) します。

2　入力切換
再生したい入力を選びます。

3　⏻ 入力機器
本機に接続した他機器の電源をオン / オフします。

4　システム
リモコンを本機の操作モードに切り換えます。また、システムセットアップなどを行うときに使用します。

5　テレビコントロールボタン
マルチコントロールの TV ボタンに割り当てられたテレビを操作します。

入力
テレビの入力を切り換えます。

⏻
テレビの電源をオン / オフします。

チャンネル ＋ / －
テレビのチャンネルを変更します。

(テレビ) 音量 ＋ / －
テレビの音量を調節します。

6　マルチコントロールボタン
本機の入力を切り換え、リモコンを入力機器の操作モードにします。

7　ディマー
フロントパネル表示部の明るさを 4 段階で切り換えます。

8　音声切換
音声が入力されている端子を切り換えます。(47 ページ)

BD メニュー *
ブルーレイディスクプレーヤーのメニュー画面を表示します。

9 リスニングモードボタン

AUTO/DIRECT
オートサラウンド再生（55 ページ）とダイレクト再生（57 ページ）を切り換えます。

STEREO/A.L.C.
ステレオ再生およびオートレベルコントロールモード、フロントサラウンド・アドバンス再生を切り換えます。（57 ページ）

STANDARD
サラウンドモードの Dolby Pro Logic などの各モードを切り換えます。（55 ページ）

ADV SURR
アドバンスドサラウンドモードを切り換えます。（56 ページ）

10 オーディオ調整
サラウンド効果の設定などを行います。（61 ページ）

トップメニュー *
ブルーレイディスクなどのトップメニューを表示します。

11 TUNER EDIT*
チューナー操作で、放送局を記憶させたり、名前をつけたりします。（48 ページ）

ツール *
ブルーレイディスクプレーヤーなどのツール画面を表示します。

メニュー *
DVD やテレビなどのメニュー画面を表示します。

12 ⬆/⬇/⬅/➡/ 決定ボタン
本機のシステムセットアップ、または各種メニュー操作に使用します。

TUNE ⬆/⬇ ボタン *
ラジオの周波数を合わせます。（48ページ）

PRESET ⬅/➡ ボタン *
記憶させたラジオ放送局を呼び出します。（48 ページ）

13 設定
本機のシステムセットアップを行います。（64 ページ）

ホームメニュー *
ホームメニュー画面を表示します。

iPod CTRL*
iPod の操作を、本機側と iPod 側とで切り換えます。（51 ページ）

14 音量 ＋ / ー
本機の音量を調節します。（47 ページ）

15 戻る
本機のシステムセットアップや各種メニュー画面で 1 つ前の画面に戻ります。

ST/MONO*
チューナー操作で FM MONO の切り換えを行います。（48 ページ）

16 高音＋ / ー
本機の高音を調整します。（リスニングモードが DIRECT または PURE DIRECT の時は使用できません。）

低音＋ / ー
本機の低音（サブウーファーチャンネルレベル）を調整します。（リスニングモードが DIRECT または PURE DIRECT の時は使用できません。）

II、■、▶、I◀◀/▶▶I、◀◀/▶▶*
ブルーレイディスクや DVD などの操作をします。

以下のテレビ操作はシフトを押しながら行います。

地上 A*
地上アナログ放送を選びます。

地上 D*
地上デジタル放送を選びます。

BS*
BS デジタル放送を選びます。

CS*
110 度 CS デジタル放送を選びます。

17 消音

音を一時的に消すときに使用します。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

18 S. レトリバー

サウンドレトリバー機能のオン / オフを切り換えます。(57 ページ)

EQ

アコースティックキャリブレーションEQ 機能のオン / オフを切り換えます。(58 ページ)

CH 選択

スピーカーごとに出力レベルを調整できます。システムボタンを押してから**CH 選択**ボタンでスピーカーを選んで、**レベル+ / −**ボタンでレベルを調整します。また、**CH 選択**ボタンを押してから ⬆/⬇ でスピーカーを選んで ⬅/➡ でレベル調整することもできます。

スリープ

スリープタイマーを設定します。設定した時間が経過すると、本機の電源が自動的にオフになります。設定時間は30 分、60 分、90 分の中から選びます。設定後にスリープボタンを押すことでタイマーの経過時間を確認することができます。

SB ch 処理

サラウンドバックチャンネルの処理モードを切り換えます。(60 ページ)

PHASE

PHASE CONTROL モードのオン / オフを切り換えます。(58 ページ)

ミッドナイト

ミッドナイト機能を選択します。(61 ページ)

数字ボタン *

CD や DVD のトラック番号などを選択します。

決定 *

入力したテレビのチャンネルなどを決定します。

🔁 *

iPod/USB の曲をリピート再生します。

🔀 *

iPod/USB の曲をシャッフル再生します。

HDD、DVD、VCR*

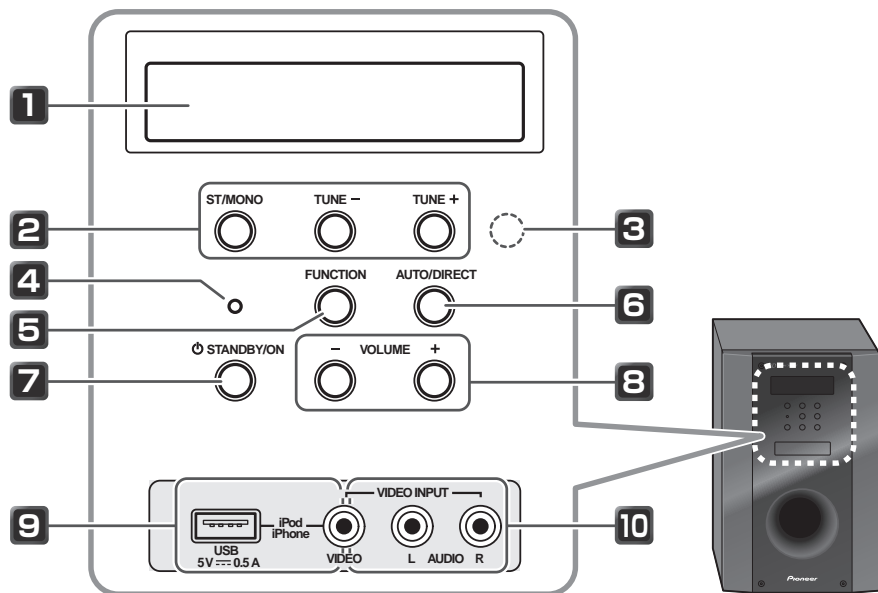
HDD/DVD レコーダーやビデオ一体型HDD/DVD レコーダーで、それぞれの操作を切り換えます。

19 表示

本機の表示を切り換えます。押すたびに入力表示、リスニングモード表示、音量表示などが切り換わります。

20 シフト

四角で囲まれたボタン（たとえば 地上 D など）はシフトボタンを押しながら操作します。

フロントパネル

1　表示部（11 ページ）

2　ラジオチューナー操作ボタン

ST/MONO
FM ラジオのステレオとモノラルを切り換えます。（48 ページ）

TUNE + / −
ラジオ放送の周波数を選択します。（48 ページ）

3　リモコン受光部（6 ページ）

4　電源インジケーター
電源をオンにすると点灯します。

5　FUNCTION
入力を切り換えます。

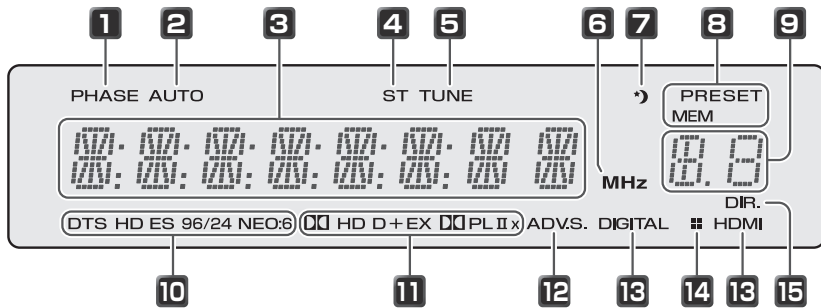
6　AUTO/DIRECT
オートサラウンド再生（55 ページ）とダイレクト再生（57 ページ）を切り換えます。

7　⏻ STANDBY/ON ボタン
電源をオン / オフ (スタンバイモード) します。

8　VOLUME + / −
音量を調節します。

9　iPod/iPhone/USB 入力端子
iPod や iPhone、またはマスストレージクラスに対応した USB メモリーを接続して再生します。（38、39 ページ）

10　VIDEO/AUDIO 入力端子
ビデオカメラやゲーム機などを接続します。（39 ページ）

表示部

1 PHASE
PHASE CONTROL モードがオンのときに点灯します。(58 ページ)

2 AUTO
オートサラウンドモード選択時に点灯します。(55 ページ)

3 キャラクター表示部

4 ST
FM ラジオ放送をステレオで受信しているときに点灯します。(48 ページ)

5 TUNE
FM ラジオ放送を受信しているときに点灯します。(48 ページ)

6 MHz
FM ラジオ放送の周波数を表示しているときに点灯します。(48 ページ)

7 *☽
スリープタイマー設定時に点灯します。(9 ページ)

8 ラジオチューナープリセットインジケーター

PRESET
放送局を登録するときや、登録した放送局を呼び出すときに点灯します。(48 ページ)

MEM
放送局を登録しているときに点滅します。(48 ページ)

9 入力信号インジケーター / チューナープリセット番号表示など
再生している機器の入力信号の種類が点灯します（46 ページ)。また FM ラジオ放送受信時は、登録した放送局のプリセット番号などさまざまな情報を表示します（48 ページ)。

10 DTS インジケーター

DTS
DTS 信号が入力されているときに点灯します。

HD
DTS-EXPRESS または DTS-HD 信号が入力されているときに点灯します。

ES
DTS-ES デコードを行っているときに点灯します。

96/24
DTS 96/24 信号が入力されているときに点灯します。

NEO:6
リスニングモードで NEO:6 CINEMA または NEO:6 MUSIC のいずれかが選択されているときに点灯します。(55 ページ)

11 ドルビーデジタルインジケーター

DD D
ドルビーデジタル信号が入力されているときに点灯します。

DD D+
ドルビーデジタルプラス信号が入力されているときに点灯します。

DD HD
ドルビー TrueHD 信号が入力されているときに点灯します。

EX
ドルビーデジタルサラウンド EX デコードを行っているときに点灯します。

DDPLII(x)
リスニングモードで DOLBY PROLOGIC のいずれかが選択されているときに点灯します。（55 ページ）

12 ADV.S.（アドバンスドサラウンド）
アドバンスドサラウンドモードに設定されているときに点灯します。（56 ページ）

13 音声切換インジケーター
再生している機器の入力信号の種類が点灯します。

DIGITAL
デジタル音声信号を選択しているときに点灯します。選んだ入力にデジタル信号が入力されていないときは点滅します。

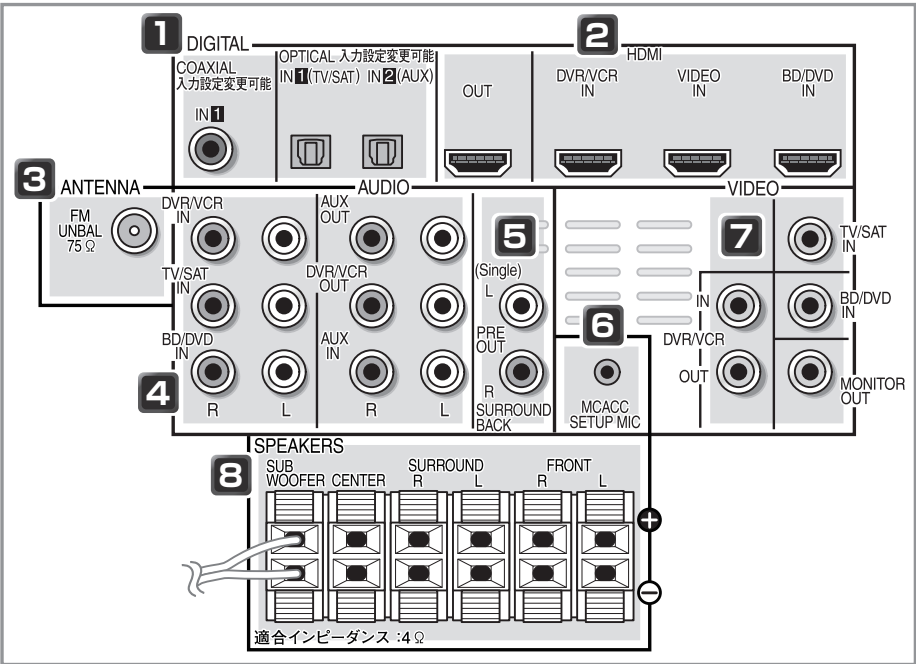
HDMI
HDMI 信号が入力されているときに点灯します。選んだ入力に HDMI 信号が入力されていないときは点滅します。
本機の HDMI によるコントロール機能が ON に設定されている場合、本機の電源がスタンバイ状態であっても、HDMI によるコントロール機能対応機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）および対応テレビを接続していて、本機から音を出さずにプレーヤーの音声と映像を HDMI を通してテレビに出力しているときに点灯します。（71 ページ）

14 UP MIX インジケーター / ディマーインジケーター
UP MIX 機能が ON のときに点灯します（60 ページ）。また、ディマーの設定でディスプレイ消灯を選んでいるときに点灯します。

15 ストリームダイレクトインジケーター
リスニングモードで DIRECT または PURE DIRECT モードが選択されているときに点灯します。（57 ページ）

⚠ 注 意

製品の仕様により、本体部やリモコン（付属の場合）のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ（遮断装置）に簡単に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

本体背面部

1 デジタル音声入力端子
同軸または光デジタルケーブルを使用して、テレビや DVD プレーヤー、BS/CS チューナー、ゲーム機などのデジタル音声出力のある機器を接続します。(31 ～ 37 ページ)

2 HDMI 入出力端子
HDMI 出力端子を持つ AV 機器を接続して、本機で高音質に再生することができます。
また、HDMI 入力端子を持つテレビを接続します。(31、33、35 ページ)

3 FM アンテナ端子
付属の FM 簡易アンテナを接続します。(40 ページ)

4 アナログ音声入出力端子
市販のオーディオケーブル（赤 / 白）を使用して、オーディオ機器を接続します。(31、32、34 ～ 37 ページ)

5 プリアウトサラウンドバック端子
お手持ちのアンプを使用して、そのアンプにサラウンドバック用スピーカーを接続して 7.1 チャンネル再生を行います。(41 ページ)

6 MCACC セットアップマイク端子
付属のマイクを接続してサラウンドの自動設定を行うときに使用します。(42 ページ)

7 映像入出力端子
MONITOR OUT 端子には、付属のビデオケーブル（黄）を使用してテレビの映像入力端子と接続します。(31、33 ～ 36 ページ)
市販のビデオケーブル（黄）を使用して、映像機器を接続します。

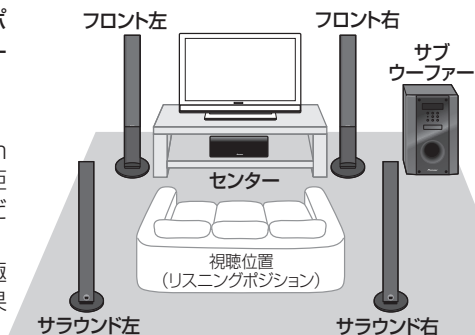
8 スピーカー端子
付属のスピーカーを接続します。(16、19、24、28 ページ)

スピーカーを設置する（HTP-S737）

接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源コードを抜いてください。また、電源コードはすべての接続が終わってから壁のコンセントに接続してください。

スピーカーの設置について

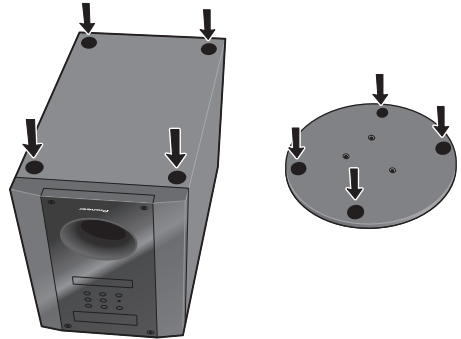
右図のように、視聴位置(リスニングポジション)の後方にサラウンドスピーカーを設置することで、本格的な5.1チャンネルサラウンドが楽しめます。

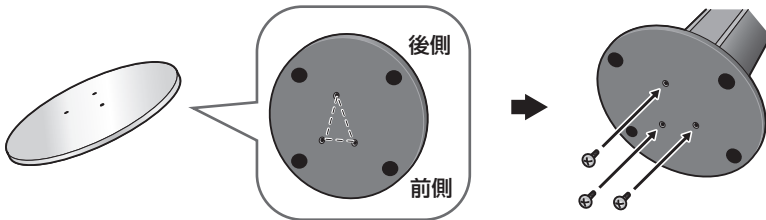
- 左右に置いたスピーカーは、間隔を1.8 m ～2.7 m程度離して、テレビから等距離で同じ高さになるように設置してください。
- サラウンドスピーカーを視聴位置から極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。

ご注意

- センタースピーカーをテレビの上に置くときは、テープなどを使用して適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーがテレビから落下してケガをしたり、スピーカーを破損したりする原因となります。
- スピーカーをぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてケガの原因となることがあります。
- 本機のフロント、センターおよびサラウンドスピーカーはテレビとの近接使用が可能なスピーカーですが、まれに設置のしかたによっては色むらを生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分～30分後ふたたびスイッチを入れてください。その後も色むらが残るようでしたら、スピーカーシステムをテレビから離してご使用ください。
- 本機のサブウーファーはテレビとの近接使用ができませんので、テレビから離してご使用ください。また、磁気に影響しやすい機器（フロッピーディスク、カセットテープ、ビデオテープなど）は本機のサブウーファーから離してお使いください。
  近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、相互作用によりテレビに色むらを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。
- フロント、サラウンドスピーカーおよびサブウーファーは壁に掛けたり、天井に吊るしたりして使用しないでください。スピーカーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損したりする原因となります。
- フロントおよびサラウンドスピーカーのスタンドベースに乗って、スピーカー本体を押したりゆらしたりしないでください。製品が倒れてこわれたり、けがの原因になることがあります。特にお子様にはご注意ください。
- 3D対応テレビは、3Dメガネに信号を送っています。3D映像を楽しむためには、テレビの取扱説明書をご覧いただき、テレビのトランスミッター部（発信部）をさえぎらないようにセンタースピーカーを設置してください。

スピーカーを接続する

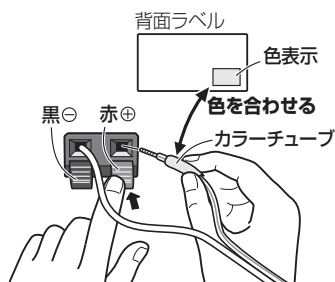
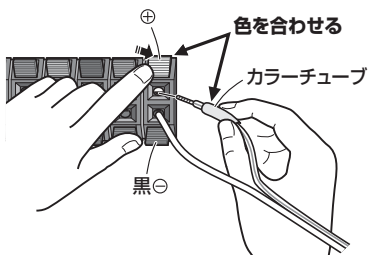
1 レシーバーサブウーファーとスピーカーベースの底面に滑り止めパッドを貼る

レシーバーサブウーファーの底面には滑り止めパッド(大)を４カ所に、スピーカーベースの底面には滑り止めパッド(小)を４カ所に貼り付けます。

2 スピーカーベースにフロントおよびサラウンドスピーカーを取り付ける

下図のようにスピーカーベースにフロントおよびサラウンドスピーカーの底面を合わせたら、付属の取り付け用ネジ３本を使用して、ゆるみのないようにしっかりと締めつけます。（二等辺三角形の頂点のネジ部が、フロントおよびサラウンドスピーカーの後側になるように合わせてください。）

3 スピーカーコードで、それぞれのスピーカーとレシーバーサブウーファーを接続する

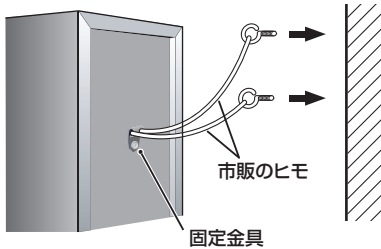
スピーカーコードは、接続するスピーカーごとにカラーチューブで色分けされています。スピーカー背面ラベルの色表示と、レシーバーサブウーファー背面端子の色をよく確認して接続してください。

フロント左：**白**
フロント右：**赤**
センター：**緑**
サラウンド左：**青**
サラウンド右：**灰**

スピーカー端子

レシーバーサブウーファー端子

お知らせ

- 本機のスピーカーを他のアンプに接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 付属のスピーカー以外のスピーカーは本機に接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 端子に接続したあと、コードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確認してください。接続が不完全ですと音がとぎれたり、雑音の出る原因となります。
- コードの芯線がはみ出して、芯線どうしが触れたりするとアンプ回路に過大な負荷が加わって音が出なくなったり、電源がオフになることがあります。
- スピーカーの極性 (+、－) を間違って接続すると、正常なステレオ効果やサラウンド効果を得ることができません。

4 フロントおよびサラウンドスピーカーを固定する

スピーカーの設置と接続が終わったら、市販のフックとヒモなどを使用して、壁とスピーカーを下図のように固定します。このとき、固定したフックやヒモなどが、スピーカーの重量に耐えられるかどうか確認してください。また、取り付けたあとで、しっかりと固定されているか確認してください。

お知らせ

- 壁の材質や強度がスピーカーの重みに耐えられるかどうかわからないときは、専門業者にお問い合わせください。
- 弊社では、間違った設置によるスピーカーの転倒事故については一切の責任を負いかねますので、設置には十分にご注意ください。

センタースピーカーを壁に掛けて使う

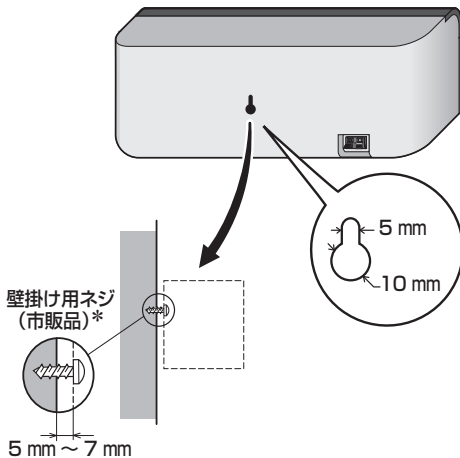
センタースピーカーを壁に掛けて使用する場合は、以下のように取り付けてください。

スピーカーを壁に掛ける際は、壁掛け用ネジ（市販品）がしっかりと締まり、固定できる壁であることを確認してください。壁の材質や強度が弱いとスピーカーの重みに耐えられず、壁に掛けたスピーカーが落下する恐れがあります。

* 壁掛け用ネジは付属品ではありません。壁の材質に合ったもので、スピーカーの重みに耐えられるものをお使いください。

お知らせ

- 壁に取り付ける場合は、重量・取り付け方法によっては落下・転倒などの危険性があります。事故のないように十分注意してください。
- 設置・据付場所は重量に十分耐え得る強度を持つ場所を選んでください。強度などが不明の場合は、専門業者にご相談ください。
- 据え付け・取り付けの不備、誤使用、改造、天災などによる事故や損傷については、弊社では一切責任を負いません。

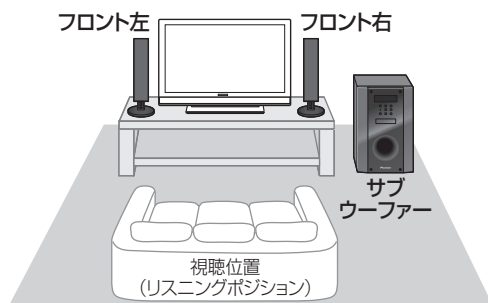
設置と接続

スピーカーを設置する（HTP-S535）

接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源コードを抜いてください。また、電源コードはすべての接続が終わってから壁のコンセントに接続してください。

スピーカーの設置について

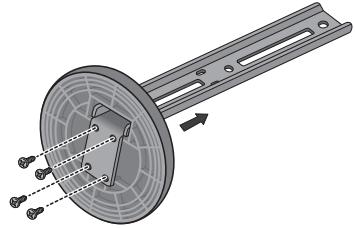
フロントスピーカーはスピーカースタンドを使用して、前面の左右に置きます。

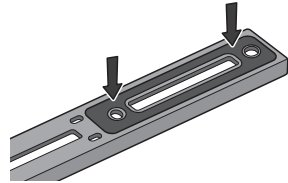
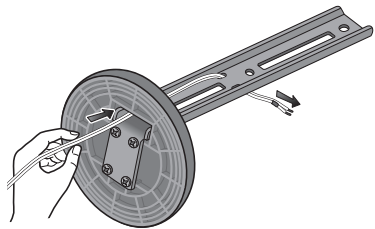
- 左右に置いたスピーカーは、間隔を 1.5 m 程度離して、テレビから等距離で同じ高さになるように設置してください。

ご注意

- スピーカーをぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてケガの原因となることがあります。
- 本機のフロントスピーカーはテレビとの近接使用が可能なスピーカーですが、まれに設置のしかたによっては色むらを生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15 分～ 30 分後ふたたびスイッチを入れてください。その後も色むらが残るようでしたら、スピーカーシステムをテレビから離してご使用ください。
- 本機のサブウーファーはテレビとの近接使用ができませんので、テレビから離してご使用ください。また、磁気に影響しやすい機器（フロッピーディスク、カセットテープ、ビデオテープなど）は本機のサブウーファーから離してお使いください。
  近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、相互作用によりテレビに色むらを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。
- サブウーファーは壁に掛けたり、天井に吊るしたりして使用しないでください。スピーカーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損したりする原因となります。

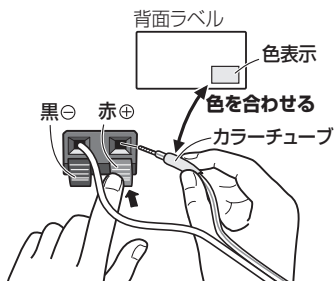
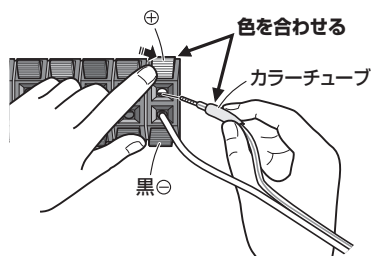
スピーカーを接続する

1 レシーバーサブウーファーの底面に滑り止めパッドを貼る

2 ポールをスピーカーベース底面の穴から通し、4 本のネジで固定する

3 パッキンをポールに貼り付ける

ポールのスピーカー固定面にパッキンを貼り付けます。

4 スピーカーコードをスピーカーベース裏面からポールへ通す

5 スピーカーコードで、それぞれのスピーカーとレシーバーサブウーファーを接続する

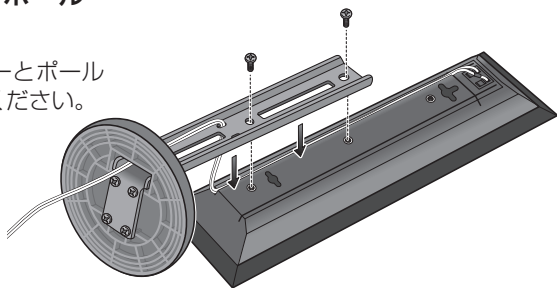
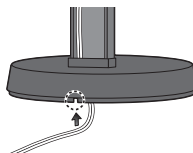
スピーカーコードは、接続するスピーカーごとにカラーチューブで色分けされています。スピーカー背面ラベルと、レシーバーサブウーファー背面端子の色表示をよく確認して接続してください。

フロント左：**白**
フロント右：**赤**

レシーバーサブウーファー端子

接続が終わったら、スピーカーコードをスピーカー背面の溝に入れて配線を整えてください。

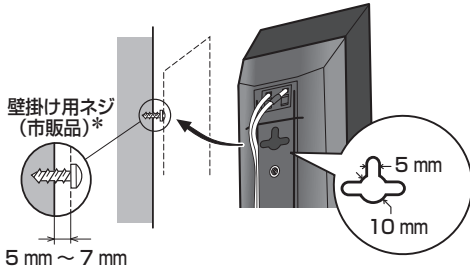
お知らせ

- 本機のスピーカーを他のアンプに接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 付属のスピーカーまたは別売りの専用スピーカー（S-SWR5CR）以外のスピーカーは本機に接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 端子に接続したあと、コードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確認してください。接続が不完全ですと音がとぎれたり、雑音の出る原因となります。
- コードの芯線がはみ出して、芯線どうしが触れたりするとアンプ回路に過大な負荷が加わって音が出なくなったり、電源がオフになることがあります。
- スピーカーの極性 (+、－) を間違って接続すると、正常なステレオ効果やサラウンド効果を得ることができません。

6 2 本のネジでスピーカーとポールを固定する

- スピーカーコードをスピーカーとポールの間にはさまないようにしてください。

ポールを固定したら、スピーカーコードをスタンド底面のくぼみに入れて配線を整えてください。

フロントスピーカーを壁に掛けて使う

フロントスピーカーを壁に掛けて使用する場合は、以下のように取り付けてください。

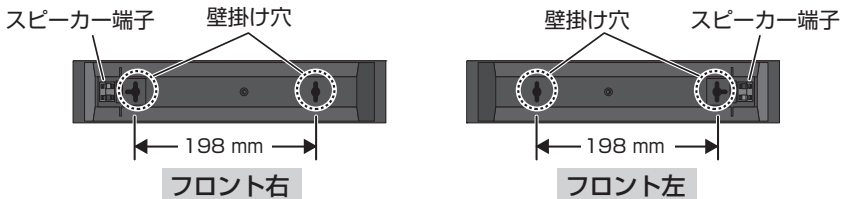
スピーカーを壁に掛ける際は、壁掛け用ネジ（市販品）がしっかりと締まり、固定できる壁であることを確認してください。壁の材質や強度が弱いとスピーカーの重みに耐えられず、壁に掛けたスピーカーが落下する恐れがあります。

＊壁掛け用ネジは付属品ではありません。
壁の材質に合ったもので、スピーカーの重みに耐えられるものをお使いください。

お知らせ

- 壁に取り付ける場合は、重量・取り付け方法によっては落下・転倒などの危険性があります。事故のないように十分注意してください。
- 設置・据付場所は重量に十分耐え得る強度を持つ場所を選んでください。強度などが不明の場合は、専門業者にご相談ください。
- 据え付け・取り付けの不備、誤使用、改造、天災などによる事故や損傷については、弊社では一切責任を負いません。

横置きで壁掛けする場合のご注意

フロントスピーカーを壁掛けするときは、通常の縦置きのほかに横置きも可能です。横置きで壁掛けする場合は、スピーカー背面２カ所の壁掛け穴を使用してください。また、左右スピーカーの端子が外側になるように設置してください。

- 水平設置時（後ろから見た図）

別売りのスピーカーを接続する

本機はフロント左右のスピーカーとサブウーファーだけで手軽にホームシアターを楽しめるシステムですが、別売りのスピーカー（S-SWR5CR）を本機に接続すれば、より本格的な 5.1 チャンネルサラウンドを楽しむことができます。

別売りのスピーカーを接続の際は、以下の点にご注意ください。

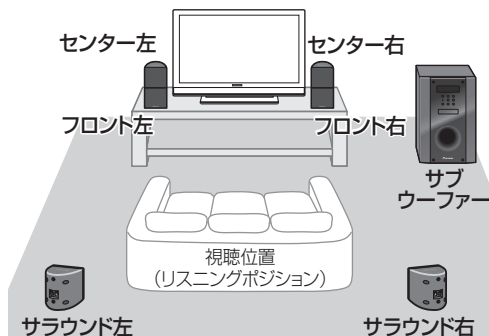
- 本書の 42 ページ以降で対象モデルが指定されている場合は、HTP-S333 が対象となっている箇所をお読みください。
- センターおよびサラウンドスピーカーの接続方法については、別売りのスピーカーに付属の取扱説明書、および本書の「スピーカーを設置する（HTP-S333)」(→ 22 ページ）をご覧ください。
- 接続のあとは、サラウンドの自動設定（オート MCACC）を行ってください。
(→ 42 ページ）

スピーカーを設置する（HTP-S333)

接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源コードを抜いてください。また、電源コードはすべての接続が終わってから壁のコンセントに接続してください。

スピーカーの設置について

右図のように、視聴位置(リスニングポジション)の後方にサラウンドスピーカーを設置することで、本格的な5.1チャンネルサラウンドが楽しめます。

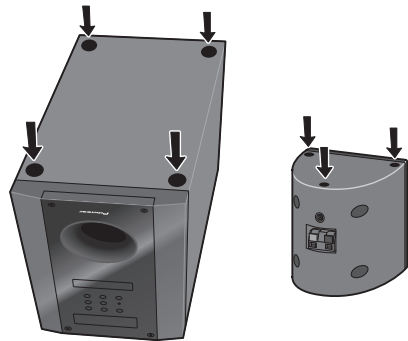
- 左右に置いたスピーカーは、間隔を1.8 m～2.7 m程度離して、テレビから等距離で同じ高さになるように設置してください。
- サラウンドスピーカーは、別売りのスピーカースタンドなどを使用して、耳の高さからやや上方に設置すると効果的です。
- サラウンドスピーカーを視聴位置から極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。

※センタースピーカーを独立して中央に置く場合

ご注意

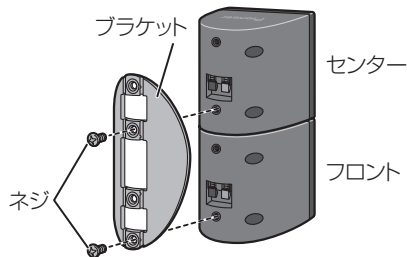
- センタースピーカーをテレビの上に置くときは、テープなどを使用して適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーがテレビから落下してケガをしたり、スピーカーを破損したりする原因となります。
- スピーカーをぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてケガの原因となることがあります。
- 本機のフロント、センターおよびサラウンドスピーカーはテレビとの近接使用が可能なスピーカーですが、まれに設置のしかたによっては色むらを生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分～30分後ふたたびスイッチを入れてください。その後も色むらが残るようでしたら、スピーカーシステムをテレビから離してご使用ください。
- 本機のサブウーファーはテレビとの近接使用ができませんので、テレビから離してご使用ください。また、磁気に影響しやすい機器（フロッピーディスク、カセットテープ、ビデオテープなど）は本機のサブウーファーから離してお使いください。
  近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、相互作用によりテレビに色むらを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。
- サブウーファーは壁に掛けたり、天井に吊るしたりして使用しないでください。スピーカーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損したりする原因となります。
- 3D対応テレビは、3Dメガネに信号を送っています。3D映像を楽しむためには、テレビの取扱説明書をご覧いただき､テレビのトランスミッター部(発信部)をさえぎらないようにセンタースピーカーを設置してください。

スピーカーを接続する

1 レシーバーサブウーファーとスピーカーの底面に滑り止めパッドを貼る

レシーバーサブウーファーの底面には滑り止めパッド (大) を 4 カ所に、フロント、センターおよびサラウンドスピーカーの底面には滑り止めパッド (小) をそれぞれ 3 カ所に貼り付けます。

2 (センタースピーカーを左右に置く場合) スピーカーを積み重ねてブラケットで固定する

それぞれのスピーカーは背面のスピーカーラベルで色分けされています。色表示を確認して、間違えないようにスピーカーを固定してください。

スピーカーを下からフロント、センタースピーカーの順番に積み重ね、それぞれのスピーカー背面の下側のネジの位置にブラケットを合わせて、2 カ所をネジで固定します。

ご注意

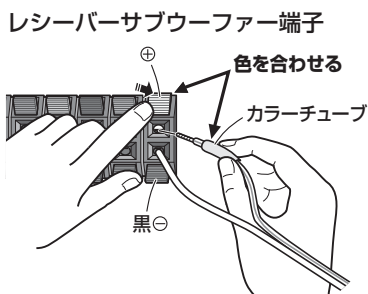
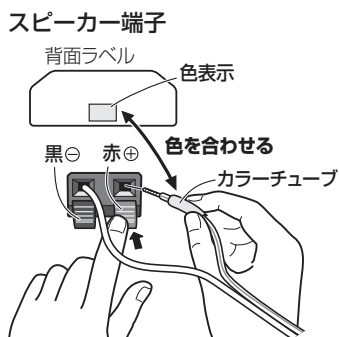
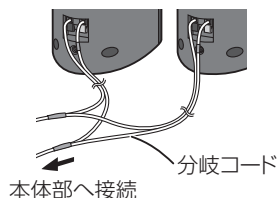
- スピーカーを積み重ねる場合は、必ずブラケットを使用してください。また、ブラケットを使用した状態でスピーカーを持ち運ばないでください。ブラケットの破損や、スピーカーの落下によるケガなどの危険性があります。

3 スピーカーコードで、それぞれのスピーカーとレシーバーサブウーファーを接続する

スピーカーコードは、接続するスピーカーごとにカラーチューブで色分けされています。スピーカー背面ラベルの色表示と、レシーバーサブウーファー背面端子の色をよく確認して接続してください。

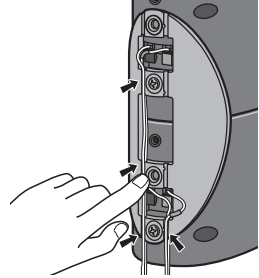
フロント左：**白**
フロント右：**赤**
センター：**緑**
サラウンド左：**青**
サラウンド右：**灰**

スピーカー端子

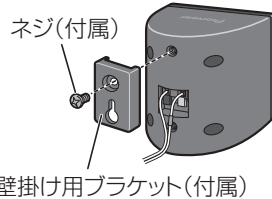
レシーバーサブウーファー端子

センタースピーカーの接続には分岐タイプのコードを使用します。分岐している方を、センタースピーカーの背面端子に2台とも接続してください。

お知らせ

- 本機のスピーカーを他のアンプに接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 付属のスピーカー以外のスピーカーは本機に接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 端子に接続したあと、コードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確認してください。接続が不完全ですと音がとぎれたり、雑音の出る原因となります。
- コードの芯線がはみ出して、芯線どうしが触れたりするとアンプ回路に過大な負荷が加わって音が出なくなったり、電源がオフになることがあります。
- スピーカーの極性 (+、－) を間違って接続すると、正常なステレオ効果やサラウンド効果を得ることができません。

4 スピーカーコードを整理する

スピーカーをブラケットで固定している場合、ブラケットの溝に合わせてスピーカーコードを通します。

スピーカーを壁に掛けて使う

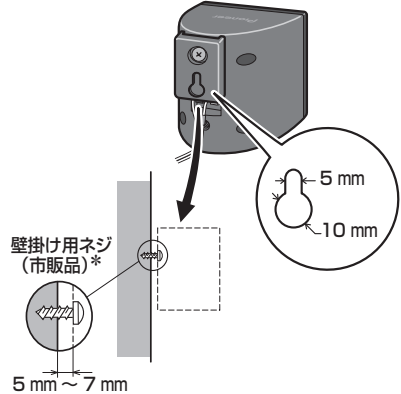
フロント、センターおよびサラウンドスピーカーを壁に掛けて使用する場合は、壁掛け用ブラケットをスピーカーに取り付けます。

- 壁掛け用ブラケットをスピーカーに取り付けるときは付属のネジを使い、ゆるみのないようにしっかりと締め付けてください。

スピーカーを壁に掛ける際は、壁掛け用ネジ（市販品）がしっかりと締まり、固定できる壁であることを確認してください。壁の材質や強度が弱いとスピーカーの重みに耐えられず、壁に掛けたスピーカーが落下する恐れがあります。

* 壁掛け用ネジは付属品ではありません。壁の材質に合ったもので、スピーカーの重みに耐えられるものをお使いください。

お知らせ

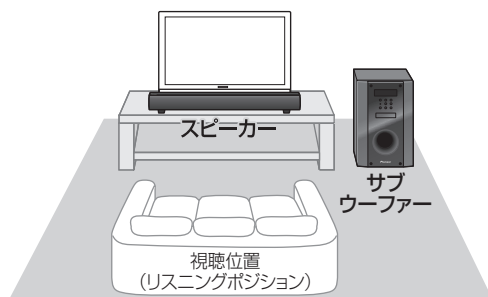
- スピーカー連結用のブラケットでスピーカーを固定した状態で壁に取り付けないでください。
- 壁に取り付ける場合は、重量・取り付け方法によっては落下・転倒などの危険性があります。事故のないように十分注意してください。
- 設置・据付場所は重量に十分耐え得る強度を持つ場所を選んでください。強度などが不明の場合は、専門業者にご相談ください。
- 据え付け・取り付けの不備、誤使用、改造、天災などによる事故や損傷については、弊社では一切責任を負いません。

設置と接続

スピーカーを設置する（HTP-SB510）

接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源コードを抜いてください。また、電源コードはすべての接続が終わってから壁のコンセントに接続してください。

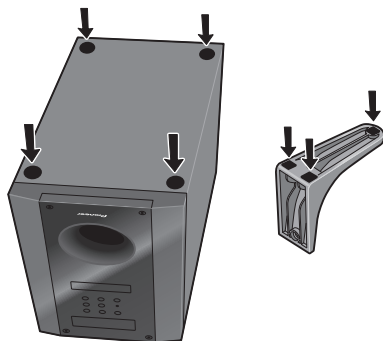
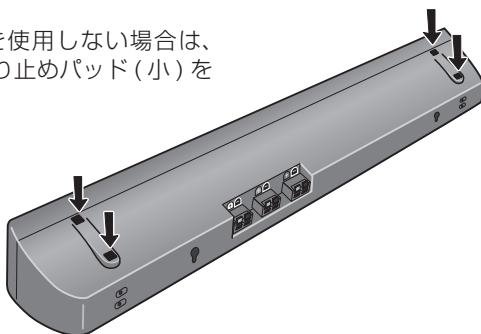
スピーカーの設置について

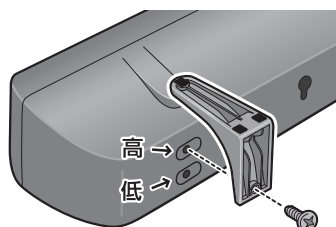
スピーカーはテレビの下（手前）に設置します。スピーカーのスタンドは高さを調節でき、スタンドを使用しないで設置することもできます。

ご注意

- スピーカーをぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてケガの原因となることがあります。
- 本機のスピーカーは防磁設計ではありませんので、ブラウン管テレビと組み合わせて使用できません。また、磁気に影響しやすい機器（フロッピーディスク、カセットテープ、ビデオテープなど）は本機のスピーカーとサブウーファーから離してお使いください。
- サブウーファーは壁に掛けたり、天井に吊るしたりして使用しないでください。スピーカーが落下してケガをしたり、スピーカーを破損したりする原因となります。
- 3D 対応テレビは、3D メガネに信号を送っています。3D 映像を楽しむためには、テレビの取扱説明書をご覧いただき､テレビのトランスミッター部（発信部）をさえぎらないようにスピーカーを設置してください。

スピーカーを接続する

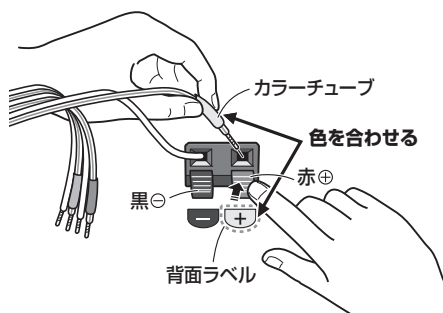
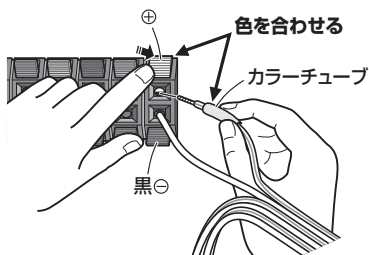
1 レシーバーサブウーファーとスピーカースタンドの底面に滑り止めパッドを貼る

レシーバーサブウーファーの底面には滑り止めパッド (大) を 4 カ所に、スピーカースタンドの底面には滑り止めパッド (小) をそれぞれ 3 カ所に貼り付けます。

スピーカースタンドを使用しない場合は、スピーカーの底面に滑り止めパッド (小) を 4 カ所に貼り付けます。

2 スピーカースタンドをスピーカーに固定する

スピーカー背面にスピーカースタンドを左右とも取り付けます。スピーカースタンドは 2 段階で高さを変えられますので、お好みの高さで固定してください。

3 スピーカーコードで、スピーカーとレシーバーサブウーファーを接続する

スピーカーコードは、接続する端子ごとにカラーチューブで色分けされています。スピーカー背面ラベルの色表示と、レシーバーサブウーファー背面端子の色をよく確認して接続してください。

フロント左端子：**白**
フロント右端子：**赤**
センター端子：**緑**

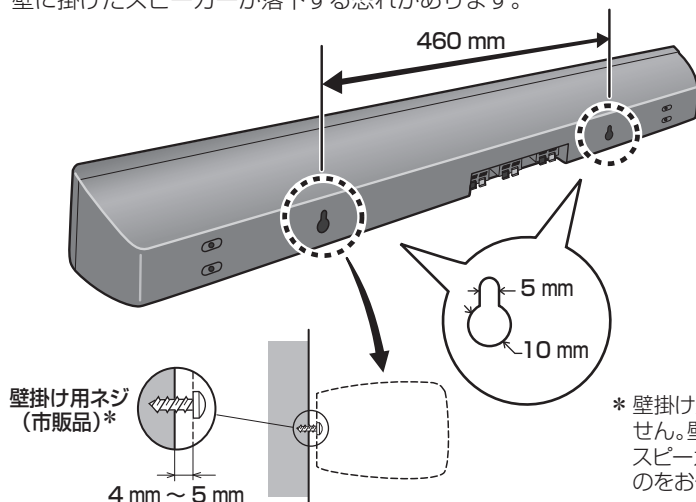
スピーカー端子

レシーバーサブウーファー端子

お知らせ

- 本機のスピーカーを他のアンプに接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 付属のスピーカーまたは別売りの専用スピーカー（S-SB5R）以外のスピーカーは本機に接続しないでください。故障や火災の原因となることがあります。
- 端子に接続したあと、コードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確認してください。接続が不完全ですと音がとぎれたり、雑音の出る原因となります。
- コードの芯線がはみ出して、芯線どうしが触れたりするとアンプ回路に過大な負荷が加わって音が出なくなったり、電源がオフになることがあります。
- スピーカーの極性 (+、－) を間違って接続すると、正常なステレオ効果やサラウンド効果を得ることができません。

スピーカーを壁に掛けて使う

スピーカーを壁に掛けて使用する場合は、以下のように取り付けてください。

スピーカーを壁に掛ける際は、壁掛け用ネジ（市販品）がしっかりと締まり、固定できる壁であることを確認してください。壁の材質や強度が弱いとスピーカーの重みに耐えられず、壁に掛けたスピーカーが落下する恐れがあります。

＊ 壁掛け用ネジは付属品ではありません。壁の材質に合ったもので、スピーカーの重みに耐えられるものをお使いください。

お知らせ

- 壁に取り付ける場合は、重量・取り付け方法によっては落下・転倒などの危険性があります。事故のないように十分注意してください。
- 設置・据付場所は重量に十分耐え得る強度を持つ場所を選んでください。強度などが不明の場合は、専門業者にご相談ください。
- 据え付け・取り付けの不備、誤使用、改造、天災などによる事故や損傷については、弊社では一切責任を負いません。
- スピーカーを壁に掛ける場合は、スピーカースタンドを使用しないでください。
- 壁に取り付ける場合は、スピーカーが水平になるように固定してください。

別売りのスピーカーを接続する

本機は付属のスピーカーとサブウーファーだけで手軽にホームシアターを楽しめるシステムですが、別売りのスピーカー（S-SB5R）を本機に接続すれば、より本格的な 5.1 チャンネルサラウンドを楽しむことができます。

別売りのスピーカーを接続の際は、以下の点にご注意ください。

- 本書の 42 ページ以降で対象モデルが指定されている場合は、HTP-S333 が対象となっている箇所をお読みください。
- サラウンドスピーカーの接続方法については、別売りのスピーカーに付属の取扱説明書、および本書の「スピーカーを設置する（HTP-S333）」（→ 22 ページ）をご覧ください。
- 接続のあとは、サラウンドの自動設定（オート MCACC）を行ってください。（→ 42 ページ）

本機を接続する

接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には、必ず電源コードを抜いてください。また、電源コードはすべての接続が終わってから壁のコンセントに接続してください。

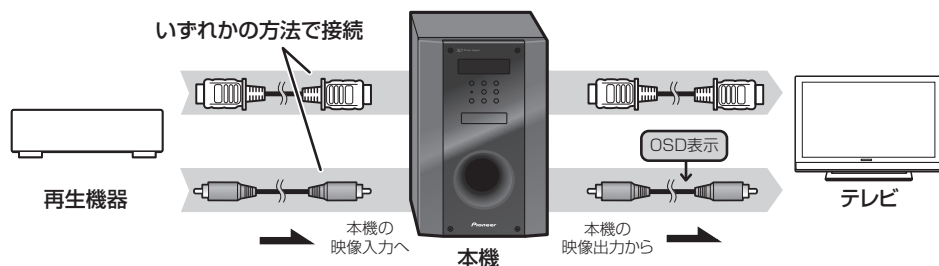
機器の接続を行う前に

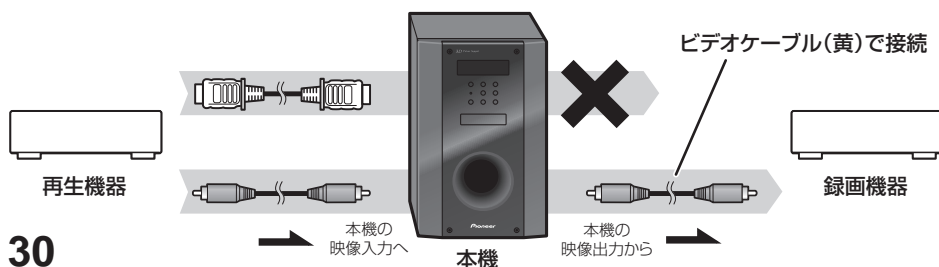
- ケーブルを本機の上や近くに置かないよう注意してください。ケーブルが本機の上に置かれていると、本機の電源装置から磁場が生じて、スピーカーから雑音が発生することがあります。

再生機器とテレビの接続について

再生機器とテレビを本機に接続する場合、映像信号はコンポジット（ビデオ）または HDMI どちらかに統一する必要があります。コンポジットから HDMI へ、または HDMI からコンポジットへ映像信号を出力することはできません。

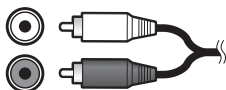
本機の OSD 画面をテレビに表示させる場合は、付属のビデオケーブル（黄）による接続が必要です。HDMI から OSD 画面は出力されません。（OSD 画面とは、スピーカーの自動設定画面や、iPod や USB の再生操作画面をテレビで見ることができる便利な機能です。）

- HDMI によるコントロール機能を ON にした場合、対応テレビと本機を HDMI ケーブルで接続しているときに、テレビをビデオ入力に切り換えると、本機の入力が自動で TV/SAT に切り換わることがあります。その場合は、再度本機の入力をもとの入力に切り換えるか、HDMI によるコントロール機能を OFF にしてください。（→ 69 ページ）

再生機器と録画機器の接続について

再生機器と録画機器を本機に接続する場合、映像信号はビデオケーブル（黄）で接続してください。HDMI からコンポジットへ映像信号を出力することはできません。

接続ケーブルについて

アナログオーディオケーブル

アナログ音声機器の接続に使用します。

一般的な赤／白プラグのケーブルで、赤いプラグを R(右) 端子に、白いプラグを L(左) 端子に接続します。

デジタルオーディオケーブル

デジタル音声機器の接続に使用します。

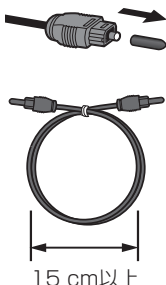
付属または市販の光デジタルケーブルや、市販の同軸デジタルケーブルで接続します。

光デジタルケーブル

同軸デジタルケーブル

お知らせ

- 付属の光デジタルケーブルの先端にはキャップが付いています。接続の前にキャップを取り外してください。
- 光デジタルケーブルは急な角度に折り曲げないでください。保管するときは、直径が 15 cm 以上になるようにしてください。

- 光デジタルケーブルは接続の際、端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉まらなくなることがあります。
- 同軸デジタルケーブルは、一般的なビデオケーブルで代用できます。

ビデオケーブル

一般的な映像用ケーブルで、黄色の映像端子（コンポジット）に接続します。

HDMI ケーブル

1 本のケーブルで映像信号と音声信号の両方を伝送します。テレビと再生機器を、本機を経由して接続する場合は、両方の機器を HDMI ケーブルで接続してください。

- Dolby TrueHD や DTS-HD のソフトを再生するには、再生機器と HDMI による接続が必要です。

お知らせ

- 「オーディオ調整機能を使う」（61 ページ）の HDMI 設定で THRU を選択しているときは、HDMI 対応機器の音声はテレビから出力されます（本機からは音声は出力されません）。
- 映像信号がテレビの画面に表示されない場合は、HDMI 対応機器やテレビの解像度の設定を調整してみてください。なお、機器（テレビゲーム機など）によっては解像度の設定ができないことがあります。このときは（アナログの）ビデオケーブルで接続してください。
- アナログ（コンポジット）映像入力から入力した映像信号は、HDMI OUT 端子から出力されません。
- HDMI の映像信号が、480i、480p、576i または 576p のときは、マルチチャンネル PCM 音声および HD 音声を受信することはできません。

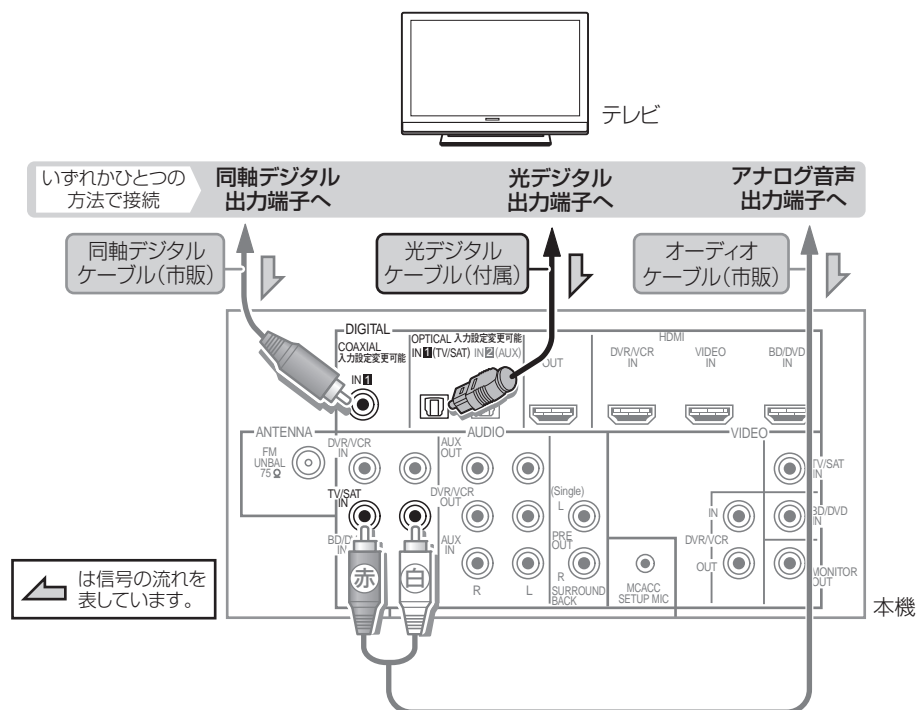
テレビを接続する（テレビの音声を本機で聴く）

テレビのチューナーから音声を楽しむには、テレビの音声を本機に入力します。

- テレビと HDMI ケーブルで接続しても、本機からテレビの音声は出ません。以下の音声ケーブルによる接続を行ってください。

1 本機の OPTICAL IN1 端子と、テレビの光デジタル音声出力を接続する

付属の光デジタルケーブルを使用して接続します。

- 市販の同軸デジタルケーブルを使用して、本機の COAXIAL IN1 端子に接続することもできます。この場合、音声入力の切り換えが必要です（47 ページ）。
- テレビにデジタル出力端子が無い場合は、市販のアナログオーディオケーブル（赤 / 白）を使用して本機の AUDIO TV/SAT IN 端子に接続することもできます。

お知らせ

- テレビにデジタル音声出力に関する設定がある場合があります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

テレビと再生機器を接続する（ブルーレイディスクなどを楽しむ）

テレビと再生機器（ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤー）を本機に接続します。

HDMI で接続する

テレビと再生機器の両方に HDMI 端子がある場合は、HDMI による接続をお勧めします。

- HDMI によるコントロール機能対応のパイオニア製テレビやブルーレイディスクプレーヤー、またはパイオニアの HDMI によるコントロール機能との互換性がある他社製品などを、HDMI ケーブルで本機と接続することで、これらの機器との連動動作が可能になります。詳しくは、「HDMI によるコントロール機能」（→ 68 ページ）をご覧ください。

1 本機の HDMI BD/DVD IN 端子と、HDMI 対応機器の HDMI 出力を接続する

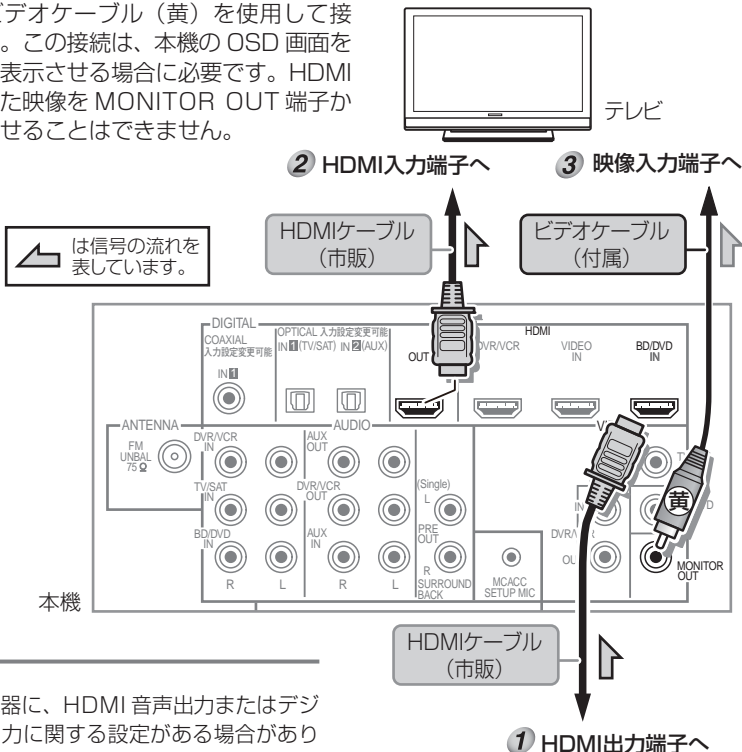
市販の HDMI ケーブルを使用して接続します。

2 本機の HDMI OUT 端子と、HDMI 対応テレビの HDMI 入力を接続する

市販の HDMI ケーブルを使用して接続します。

3 本機の MONITOR OUT 端子と、テレビの映像入力を接続する

付属のビデオケーブル（黄）を使用して接続します。この接続は、本機の OSD 画面をテレビに表示させる場合に必要です。HDMI で入力した映像を MONITOR OUT 端子から出力させることはできません。

ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど

お知らせ

- 接続した機器に、HDMI 音声出力またはデジタル音声出力に関する設定がある場合があります。詳しくは、それぞれの再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機の HDMI 出力からは、HDMI 入力で接続された機器の映像、音声のみ出力されます。

HDMI 以外で接続する

テレビまたは再生機器に HDMI 端子がない場合は、映像信号はアナログで接続します。

1 本機の OPTICAL IN2 端子と、再生機器の光デジタル音声出力を接続する

市販の光デジタルケーブルを使用して接続します。この場合、音声入力の切り換えが必要です（47 ページ）。

- 市販の同軸デジタルケーブルを使用して、本機の COAXIAL IN1 端子に接続することもできます。この場合、音声入力の切り換えが必要です（47 ページ）。
- 再生機器にデジタル出力端子が無い場合は、市販のアナログオーディオケーブル（赤 / 白）を使用して、本機の AUDIO BD/DVD IN 端子に接続することもできます。

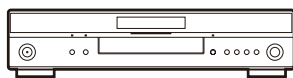
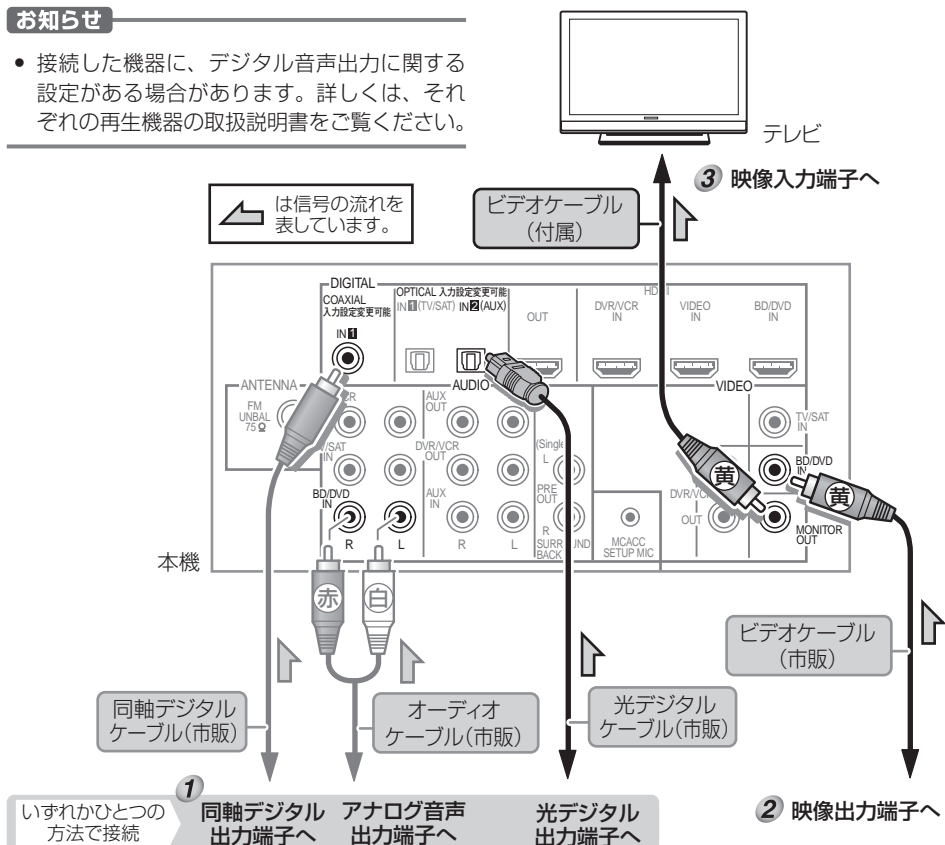
2 本機の VIDEO BD/DVD IN 端子と、再生機器の映像出力を接続する

市販のビデオケーブル（黄）を使用して接続します。

3 本機の MONITOR OUT 端子と、テレビの映像入力を接続する

付属のビデオケーブル（黄）を使用して接続します。

お知らせ

- 接続した機器に、デジタル音声出力に関する設定がある場合があります。詳しくは、それぞれの再生機器の取扱説明書をご覧ください。

HDD/DVD レコーダーやビデオデッキを接続する

HDD/DVD レコーダーやビデオデッキなどの録画機器を接続します。

- 録画することを前提とする場合は、再生機器とここで接続する録画機器は、映像信号をビデオケーブル(黄)、音声信号をアナログオーディオケーブル(赤 / 白)に統一してください。
- テレビの接続については 34 ページをご覧ください。

1 本機の VIDEO DVR/VCR IN 端子と、録画機器の映像出力を接続する

市販のビデオケーブル（黄）を使用して接続します。この場合、テレビもビデオケーブル（黄）で接続してください。

- 録画機器に HDMI 出力端子がある場合は、市販の HDMI ケーブルでも接続できます。この場合、テレビも HDMI ケーブルで接続してください。

2 本機の AUDIO DVR/VCR IN 端子と、録画機器の音声出力を接続する

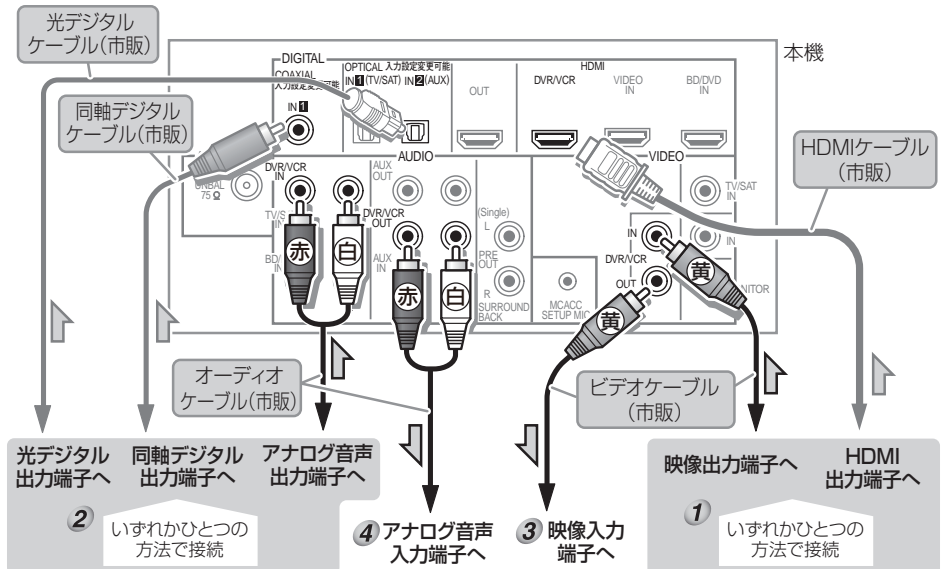
市販のアナログオーディオケーブル（赤 / 白）を使用して接続します。

- 市販の光デジタルケーブルを使用して、本機の OPTICAL IN1 または IN2 端子にも接続できます。また、市販の同軸デジタルケーブルを使用して、本機の COAXIAL IN1 端子に接続することもできます。これらの場合、音声入力の切り換えが必要です(47 ページ)。

3 本機の VIDEO DVR/VCR OUT 端子と、録画機器の映像入力を接続する

市販のビデオケーブル（黄）を使用して接続します。

4 本機の AUDIO DVR/VCR OUT 端子と、録画機器の音声入力を接続する

市販のアナログオーディオケーブル（赤 / 白）を使用して接続します。

HDD/DVDレコーダー、ビデオデッキなど

BS/CS/ 地上デジタルチューナーを接続する

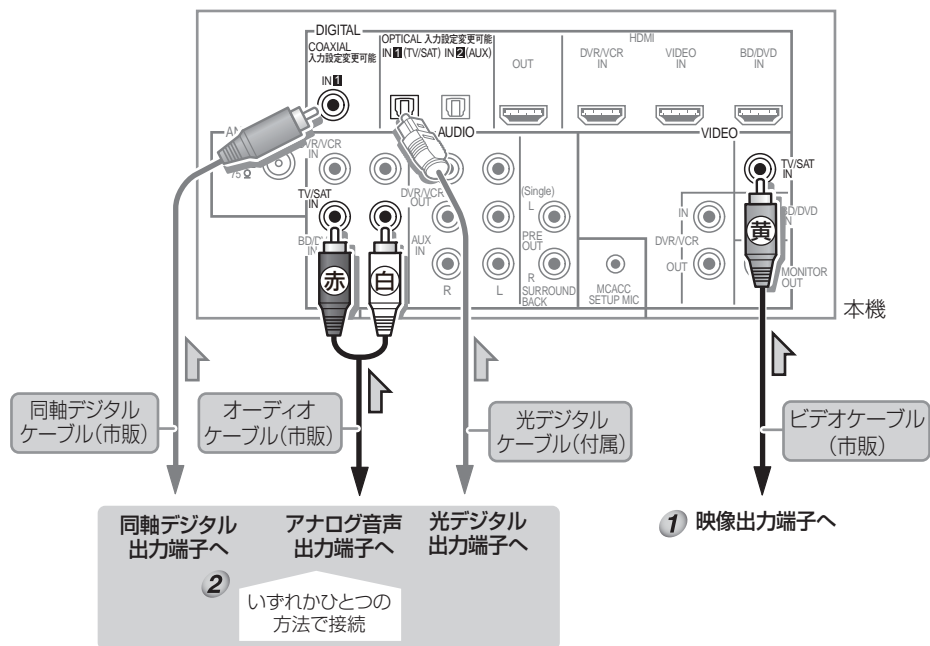
衛星放送やケーブルテレビチューナー、地上デジタルチューナーなどの映像機器を接続します。

1 本機の TV/SAT IN 端子と、映像機器の映像出力を接続する

市販のビデオケーブル（黄）を使用して接続します。この場合、テレビもビデオケーブル（黄）で接続してください。

2 本機の AUDIO TV/SAT IN 端子と、映像機器の音声出力を接続する

市販のアナログオーディオケーブル（赤 / 白）を使用して接続します。この場合、音声入力の切り換えが必要です（47 ページ）。

- 付属の光デジタルケーブルを使用して、本機の OPTICAL IN1 端子にも接続できます。
- 市販の同軸デジタルケーブルを使用して、本機の COAXIAL IN1 端子に接続することもできます。この場合、音声入力の切り換えが必要です（47 ページ）。

お知らせ

- お手持ちの BS/CS/ 地上デジタルチューナーに HDMI 出力端子がある場合は、本機と HDMI による接続を行ってください。

音声機器を接続する

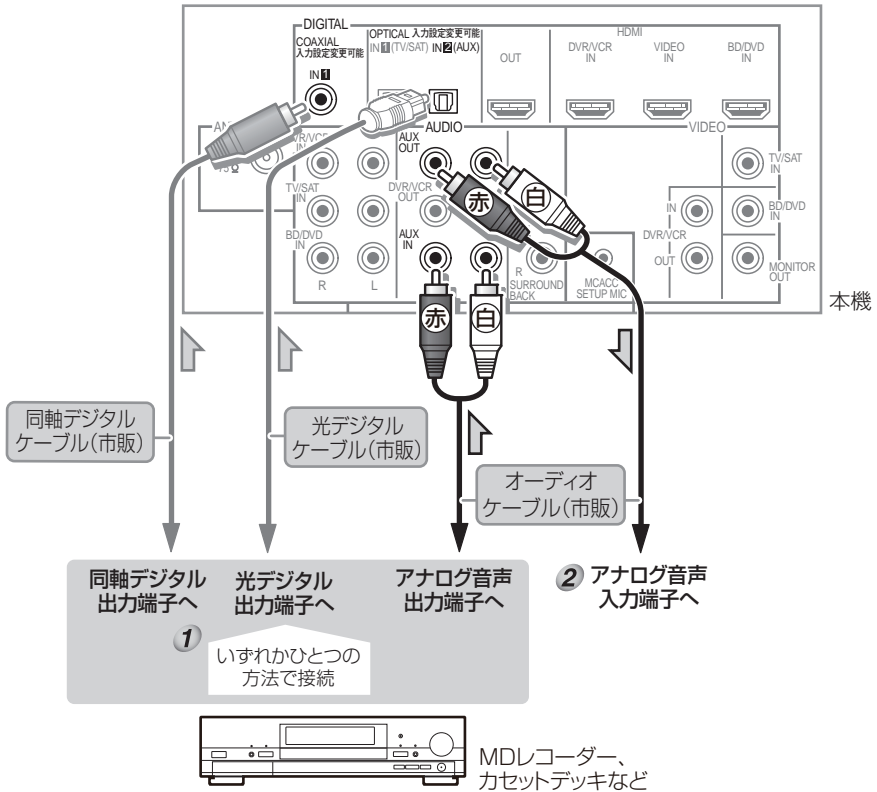
カセットデッキや CD、MD プレーヤーなどの音声機器を接続します。

1 本機の AUDIO AUX IN 端子と、音声機器の音声出力を接続する

市販のアナログオーディオケーブル（赤 / 白）を使用して接続します。

- 市販の光デジタルケーブルを使用して、本機の OPTICAL IN2 端子にも接続できます。
- 市販の同軸デジタルケーブルを使用して、本機の COAXIAL IN1 端子に接続することもできます。この場合、音声入力の切り換えが必要です（47 ページ）。

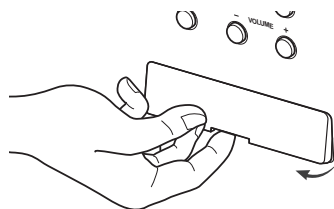
2 本機の AUDIO AUX OUT 端子と、音声機器の音声入力を接続する

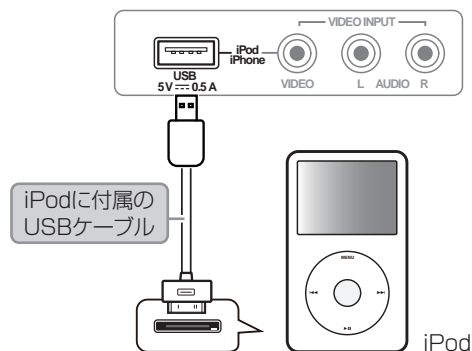
市販のアナログオーディオケーブル（赤 / 白）を使用して接続します。

お知らせ

- 接続した機器にデジタル音声出力に関する設定がある場合があります。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

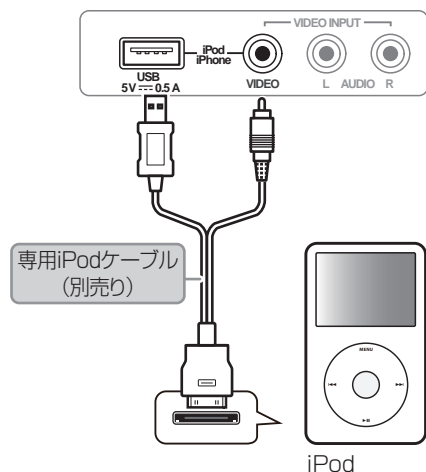
前面端子に機器を接続する

前面端子に iPod や USB メモリー、映像 / 音声機器を接続して、本機で音声や映像を楽しめます。

- 前面端子を使用するときは、端子カバーを取り外します。接続の前に本機の電源をオフにしてください。
- iPod/USB メモリーの再生操作画面や、機器の映像をテレビで見る場合は、本機とテレビとの接続を行ってください。（→ 34 ページ）

iPod を接続する

iPodを接続して、iPodの音楽を本機で楽しめます。接続には、iPodに付属のUSBケーブルを使用します。iPodの再生については、「iPodをつないで再生する」（→50ページ）をご覧ください。

お知らせ

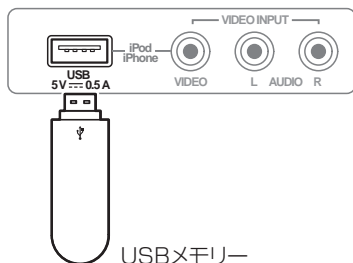
- iPod の接続については、iPod に付属の取扱説明書もご覧ください。

専用ケーブルを使用して iPod の音声や映像を楽しむ

別売りの専用 iPod 接続ケーブルを使用して iPod を接続すると、iPod の映像も本機に接続したテレビで楽しむことができます。

お知らせ

- 別売りの iPod 接続ケーブル（パイオニア部品番号：ADE7129）をご注文の際は、パイオニア部品受注センターへご連絡ください。（→裏表紙）
- テレビとの接続については、34 ページを参考にしてください。
- HDMI によるコントロール機能を ON にした場合、対応テレビと本機を HDMI ケーブルで接続している状態で、本機が iPod 入力のときにテレビの入力を切り換えると、本機の入力が自動で TV/SAT に切り換わることがあります。その場合は、再度本機の入力を iPod 入力に切り換えるか、HDMI によるコントロール機能を OFF にしてください。（→ 69 ページ）

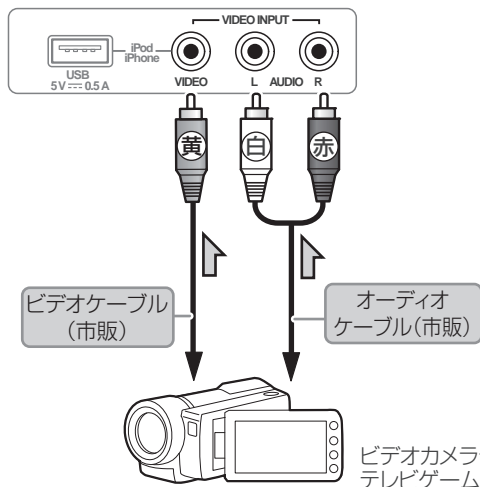
USB メモリーを接続する

お手持ちのUSBメモリーを接続して、USBメモリーに記録されている音楽ファイルを本機で再生できます。USBメモリーの再生については、「USBメモリーを再生する」（→52ページ）をご覧ください。

お知らせ

- 本機とパソコンをUSBケーブルで接続して音楽ファイルを再生することはできません。本機が対応しているUSBメモリーは、外付けハードディスクや携帯フラッシュメモリー、マルチカードリーダー、デジタルカメラ、デジタルオーディオ再生機（FAT16、FAT32のフォーマットに対応）などのUSBマスストレージクラスに属する機器です。
- 本機はUSBメモリーの再生、および電源の供給をすべては保証できません。また、本機と接続したことで、USBメモリーのファイルが万一損失した場合、当社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。

映像 / 音声機器を接続する

ビデオカメラやテレビゲーム機などを前面端子に接続して、簡単にこれらの機器の映像や音声を楽しめます。接続には、市販のビデオケーブル（黄）とアナログオーディオケーブル（赤/白）を使用します。

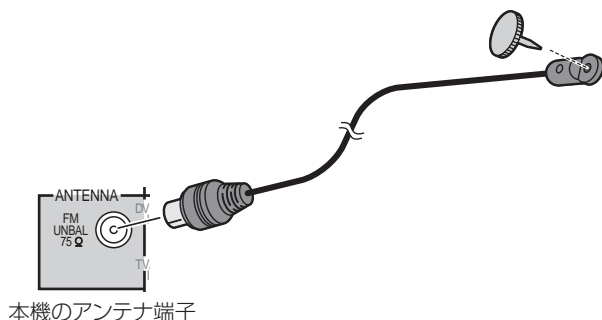
- 音声が出力されない場合は、システムボタンを押してから**音声切換**ボタンを押して、A（アナログ）を選択してください。

お知らせ

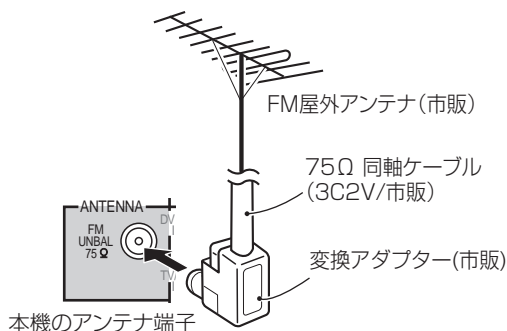
- ポータブルDVDプレーヤーなどは、専用の接続コードが付属している場合があります。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- テレビとの接続については、34ページを参考にしてください。
- HDMI端子を持つビデオカメラやゲーム機については、HDMIケーブルで本機背面部にあるVIDEO IN端子と接続できます。その場合は、本機とテレビをHDMI接続する必要があります。（→33ページ）

FM アンテナを接続する

付属のアンテナを接続して FM ラジオ放送を聴くことができます。

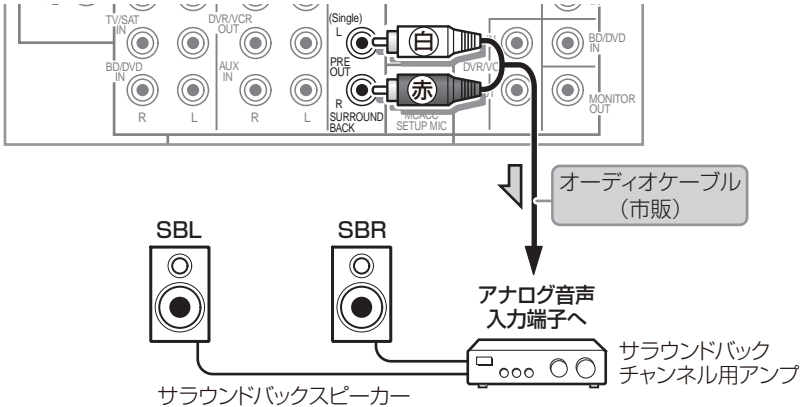
付属の FM 簡易アンテナを ANTENNA 端子に差し込んでください。

- 付属の FM 簡易アンテナは、たらしておいたり丸めたままにしないで、最も良い受信状態が得られるように、ピンと張ってください。
- 受信状態の良い方向が決まったら、画びょうやテープで固定します。

FM 屋外アンテナをつなぐ

付属の FM 簡易アンテナでは放送がよく聞こえないときは、市販の外部アンテナを接続してください。市販の同軸ケーブルと変換アダプターを使って、下図のように接続してください。

お知らせ

- 付属のアンテナまたは上記の外部アンテナ以外のアンテナは接続しないでください。
- アンテナは本機や各接続ケーブルから離した場所に置いてください。
- 付属のアンテナでよく聞こえないときは、「FM ラジオ放送の雑音を減らす」(48 ページ) を参照して操作してみてください。

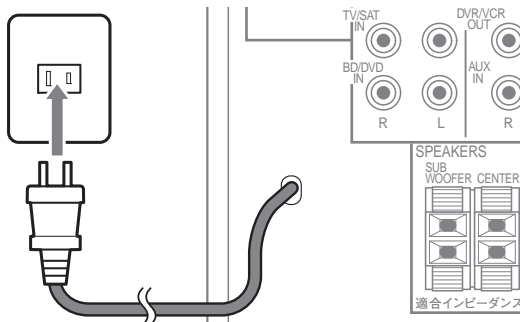
サラウンドバックスピーカーを接続する

本機にお手持ちのアンプとサラウンドバックスピーカーを接続することで、7.1 チャンネル再生を行うことができます。

サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ接続するときはサラウンドバックスピーカーをアンプの **L** 側のスピーカーに接続し、本機の **L(Single)** 端子と**アンプ**の L 端子を接続します。

お知らせ

- HTP-S535 は、サラウンドバックスピーカーの他に、別売りの専用スピーカー S-SWR5CR も必要です。
- HTP-SB510 は、サラウンドバックスピーカーの他に、別売りの専用スピーカー S-SB5R も必要です。

電源コードを接続する

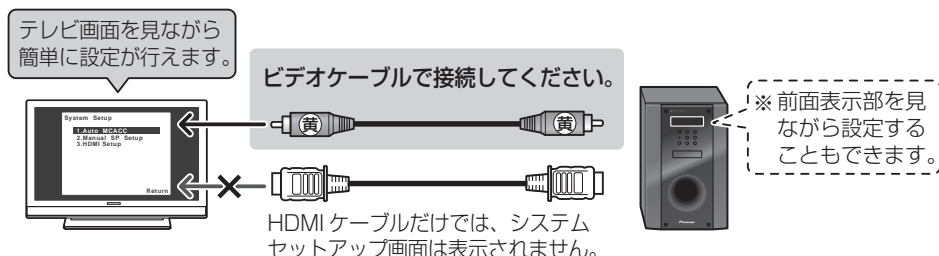
すべての接続が終了したら、電源コードを家庭用電源コンセント(AC 100 V)に接続します。

ご注意

- 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。長期間、電源コードを抜いた状態でも、本機で設定した各種設定が消去されることはありません。

サラウンドの自動設定（オートMCACC）

本機のオートMCACCでは、従来の手動調整では難しかったさまざまな設定を、自動で高精度に測定、設定することができます。
スピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップ用マイクで測定し、解析します。すべての測定／解析にかかる時間は、1分～3分程度です。

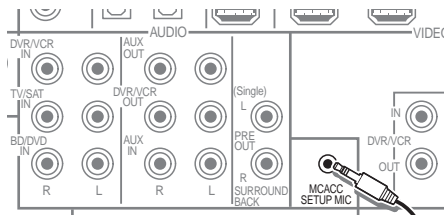
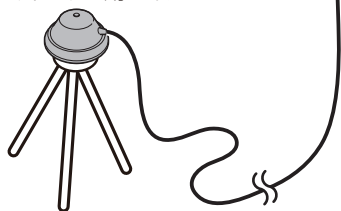
ご注意

- **テレビをHDMIケーブルのみで接続した場合、システムセットアップ画面は表示されませんので、付属のビデオケーブル（黄）で接続してください。本機とテレビとの接続は、33ページをご覧ください。**

- 入力が**iPod/USB**のときはシステムセットアップ設定を行うことができません。
- 測定中は大きな音でテストトーンが出力されます。近隣住宅や小さなお子様などへのご配慮をお願いします。

お知らせ

- 測定中は静かにしてください。
- スピーカーと視聴位置（マイク）の間に障害物があると、正確に測定できないことがあります。
- 測定中は視聴位置から離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。
- 測定の途中で音量を下げることもできますが、正しく設定されない場合があります。
- 付属のマイクをテレビモニター近くに置いてセットアップを行わないでください。
- オートMCACC設定を行うと、それ以前に行ったスピーカーに関する設定は、すべて上書きされます。
- 測定を中断した場合は、それまでの測定内容は確定されません。
- オートMCACC画面のまま3分間放置すると、画面にスクリーンセーバー機能が働きますが、いずれかのボタンを押すことでふたたび同じ画面を表示します。

1 セットアップ用マイクを接続する

本機背面にある MCACC SETUP MIC 端子に接続します。

2 マイクを視聴位置に設置する

リスニングポジションにマイクを設置するときは、三脚を使ってマイクを耳の高さにします。三脚がないときは、台や椅子などを使い、マイクが耳の高さで水平になるようにしてください。

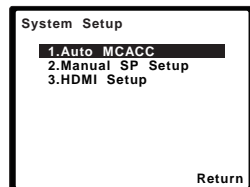
3 システム ⏻ を押す

本機の電源がオンになります。

テレビの電源もオンにして、テレビの入力を本機とビデオケーブル（黄）で接続した入力に合わせてください。

4 システム ◯ を押してから 設定 ホーム メニュー を押す

テレビにシステムセットアップ画面が表示されます。

前面表示部：A. MCACC

- ⬆/⬇/⬅/➡ と**決定**ボタンで、操作項目を選びます。
- **戻る**ボタンで前の画面に戻ります。
- **設定**ボタンでシステムセットアップを終了します。

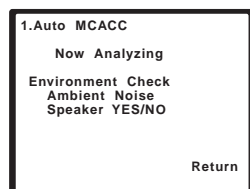
5 決定 で「Auto MCACC」を選んで決定する

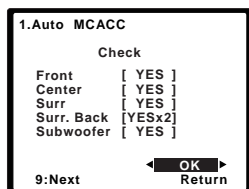
- MIC IN! と点滅表示した場合は、マイクが正しく接続されていません。MCACC SETUP MIC 端子にマイクが接続されているかを確認してください。
- サラウンドバックスピーカーを使用しているときは、サラウンドバックスピーカーを接続しているアンプの電源を入れて音量を適度に上げておいてください。

6 オート MCACC 設定が開始されます

スピーカーシステムの確認のためテストトーンが出力され、測定中を示す画面になります。測定中はできるだけ静かにしてください。

PLS WAIT

準備
設置と接続
基本設定と操作
iPod／USB
サラウンド再生
応用設定
リモコン
困ったとき
付録

7 スピーカーの有り無しを確認する

測定が終わると、スピーカー有り無しの判定の確認画面が表示されます。10 秒間何も操作がないときは自動で手順 8 へ進み、オート MCACC 設定が再開されます。

F YES

- Too much ambient noise といったエラー表示が出たときは、部屋を静かにしてから RETRY を選んでください。詳しくは「オート MCACC 設定時におけるその他の問題」（45 ページ）をご覧ください。

スピーカー有り無し確認画面の見かた：

有無 / スピーカー	接続している	接続していない	規定外の接続
Front フロント左右	YES	ERR	ERR
Center センター	YES	NO	- - -
Surr サラウンド左右	YES	NO	ERR
Surr.Back サラウンドバック左右	YES x 2 （2つ接続） YES x 1 （1つ接続）	- - -	ERR
Subwoofer サブウーファー	YES	NO	- - -

スピーカーの測定結果が間違っていたときは ⬆/⬇ ボタンでスピーカーを選んで ⬅/➡ ボタンで設定を変更します。

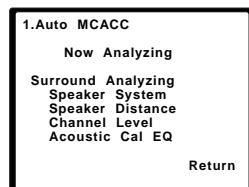
エラー（ERR）が表示されたときは、マイクやスピーカー接続に問題があるかもしれません。

「ERR」表示には次のような種類があります。

- Front : ERR －フロントスピーカーの接続を確認してください。
- Surr : ERR －サラウンドスピーカーの接続を確認してください。
- Surr.Back : ERR －サラウンドバックスピーカーの接続を確認してください。

「RETRY」を選んで再測定しても同じエラーが表示されるときは、電源を切ってからスピーカーの接続を確認してください。

8 （決定）で「OK」と表示させてから決定する

スピーカー出力レベル、スピーカーまでの距離、周波数特性の補正が開始され測定中を示す画面になります。

- 測定中は静かにしてください。この測定には 1 ～ 3 分程度かかります。

9 自動測定が終了するとシステムセットアップ画面に戻ります

必ずセットアップ用マイクを本機から抜いてください。

オート MCACC では自動で最適なサラウンド環境を設定しますが、システムセットアップから項目を選んで、各設定を手動で調整することもできます。詳しくは 64 ページをご覧ください。

お知らせ

- スピーカーまでの距離について、サブウーファーまでの距離が、リスニングポジションからの実際の距離よりも遠めに設定されることがあります。この設定は遅延補正や部屋の特徴を考慮に入れた正しい設定値のため、特に変更する必要はありません。
- スピーカーまでの距離について、サラウンドバックスピーカーまでの距離が実際の距離と合わないことがあります。これはご使用のサラウンドバックチャンネル用アンプがデジタル処理を行うときに発生します。この場合、接続したアンプをあらかじめアナログダイレクトなどのモードに設定してください。アナログダイレクトなどのモードがない場合は、ステレオモードに設定してください。この状態で行った距離補正は正しく行われていますので、特に設定値を変更する必要はありません。

オート MCACC 設定時におけるその他の問題

部屋の環境がオート MCACC 設定に適していない場合（騒音が大きい、壁の残響が大きい、スピーカーとマイクの間に障害物があるなどの場合）、正しい測定結果を得られないことがあります。測定に影響を与える可能性のある機器（エアコン、冷蔵庫、扇風機など）を確認し、必要に応じてそれらの電源を切ってください。フロントパネルの表示部にメッセージが表示された場合は、その指示に従ってください。

旧型のテレビによっては、マイクでの測定に影響を与えるものがあります。その場合は、オート MCACC 設定のときだけテレビの電源を切ってください。

本機から音を出す

本機に接続した他機器やラジオなどの音声を聴くまでの手順です。

1 再生機器の電源をオンにする

2 システム（⏻）本機の電源をオンにする

3 BD　TV　DVR　VIDEO　TUNER　AUX　iPod USB

マルチコントロールボタンを押して、聴きたい入力を選ぶ

マルチコントロールボタンはそれぞれ以下の入力に切り換わります。

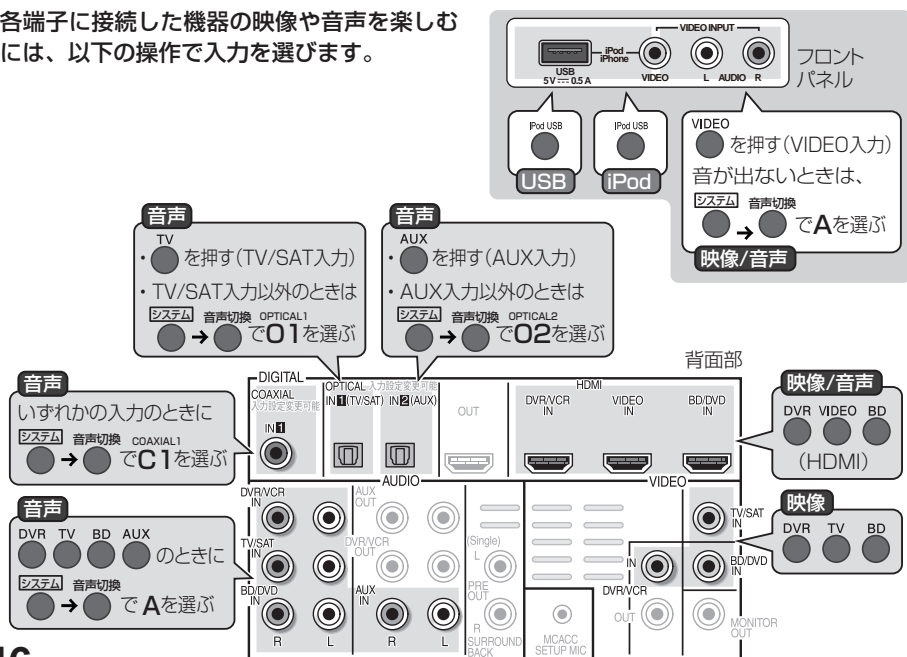
BD※ － BD/DVD端子
TV※ － TV/SAT端子
DVR※ － DVR/VCR端子
VIDEO※ － VIDEO端子
TUNER － FMラジオ
AUX※ － AUX端子
iPod USB － iPod USB端子（フロントパネル）

- ※印が付いている入力は、必要に応じて音声入力信号の種類を選んでください（→ 47ページ）。
- マルチコントロールボタンを押すと、リモコンもそれぞれの機器の操作モードに切り換わります。本機を操作したいときは、一度システムボタンを押してから操作ボタンを押してください。（他機器の操作については72ページをご覧ください。）
- 入力切換（←）（→）でも入力を選ぶことができます。この場合、操作モードは切り換わりません。

4 再生機器の再生を開始する

5 AUTO/DIRECT　STEREO/A.L.C.　STANDARD　ADV SURR

お好みのリスニングモードを選ぶ

各端子に接続した機器の映像や音声を楽しむには、以下の操作で入力を選びます。

6 音量を調節する

音量は、MIN（最小）～ MAX（最大）の範囲で操作できます。

- 一時的に音を消したいときは、消音を押します。もう一度押すか、音量を調節すると解除します。

音声入力信号を選択する

各入力ごとに再生する音声入力信号を選択することができます。

デジタル入力端子は次のように設定されています。

- OPTICAL1：**TV/SAT** 入力
- OPTICAL2：**AUX** 入力

各入力に上記以外の機器を接続している場合や、COAXIAL1 の入力を選ぶ場合は以下の操作を行ってください。（一度設定すると、マルチコントロールボタンで入力を選んだときに、ここで選んだ入力の音声が再生されます。）

1 システム を押す

2 音声切換 で接続している機器の入力信号を選択する

押すたびに次のように切り換わります。

- **H** − HDMI 入力を選択します。BD/DVD、VIDEO、DVR/VCR 入力のときに選択できます。
- **A** −アナログ入力を選択します。
- **C1/01/02** −デジタル入力を選択します。
  C1 は COAXIAL1 入力
  01 は OPTICAL1 入力
  02 は OPTICAL2 入力を表します。

H（HDMI）または **C1/01/02**（デジタル）を選択しているときに、選んだ音声信号の入力がない場合、自動で **A**（アナログ）が選択されます。

お知らせ

- **H**（HDMI）または **C1/01/02**（デジタル）に設定した場合、Dolby Digital 信号が入力されると DD インジケーターが点灯します。また DTS 信号が入力されると DTS インジケーターが点灯します。
- **H**（HDMI）に設定した場合、**A** および **DIGITAL** インジケーターがともに消灯します。
- 本機で再生できるデジタル信号の形式は、Dolby Digital、PCM（32 kHz ～ 96 kHz）、DTS（DTS 96 kHz/24 bit を含む）および MPEG-2 AAC です。HDMI 端子を経由することで、SACD（DSD 2 ch）、DVD オーディオ（192 kHz 含む）、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-EXPRESS、DTS-HD Master Audio、DTS-HD Hi-Resolution なども再生できます。その他のデジタル信号は対応していませんので、**A**（アナログ）を選択してください。
- **A**（アナログ）を選択した状態で DTS 対応の LD プレーヤーや CD プレーヤーを再生すると、デジタルノイズが発生することがあります。この場合、入力信号は **C1/01/02**（デジタル）を選択してください。
- DVD プレーヤーによっては DTS 信号が出力できないなど、再生できるデジタル信号に制限があります。詳しくは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- オーディオ調整機能の HDMI を **THRU** に設定しているときは、本機からではなくテレビから音が出ます。（62 ページ）

FM ラジオを聴く

アンテナが接続されていないと、FM ラジオ放送を聴くことはできません。40 ページを参照して、アンテナを接続してください。

1 TUNER を押す

2 TUNE で聴きたい放送局に周波数を合わせる

フロントパネルの TUNE ＋ / －ボタンでも操作できます。

オートチューニング

TUNE⬆/⬇ ボタンを押し続けて、周波数が動き始めたら指を放します。

周波数が自動的に変化して、放送局を受信すると自動的に止まります。

途中で止めるときは、もう一度 TUNE⬆/⬇ ボタンを押すか、決定を押します。

マニュアルチューニング

TUNE⬆/⬇ ボタンを 1 回ずつ押します。

周波数が 1 ステップずつ変化します。

ハイスピードマニュアルチューニング

TUNE⬆/⬇ ボタンを押し続けます。

ボタンを押している間、周波数が連続して変化し、指を放すと止まります。

FM ラジオ放送の雑音を減らす

FM の受信で TUNE または ST インジケーターが点灯せず受信状態が悪いときは、モノラル受信（FM MONO）に切り換えると受信感度が良くなり放送が聴きやすくなります。

1 ST/MONO 戻る を押す

放送局を記憶させる

よく聴く放送局を 30 局まで記憶することができます。

1 記憶させたい放送局を受信する

2 TUNER EDIT ツール メニュー を押す

PRESET と表示され、MEM とステーション番号が点滅します。

3 PRESET で記憶させるステーション番号を選ぶ

ステーションの選択には数字ボタンも使用できます。

4 決定 を押す

保存先のステーション番号の点滅が止まり、本機に放送局が記憶されます。

記憶させた放送局を呼び出す

1 PRESET で呼び出したい放送局のステーション番号を選ぶ

ステーションの選択には数字ボタンも使用できます。

記憶させた放送局に名前をつける

選局しやすいように、記憶させた放送局に名前をつけることができます。

1 名前をつけたい放送局を選ぶ

「記憶させた放送局を呼び出す」（48ページ）をご覧になり、記憶させた放送局を呼び出します。

2 TUNER EDIT ツール メニュー を 2 回押す

表示部の最初の文字の位置でカーソルが点滅します。

3 名前を入力する

PRESET⬅/➡ ボタンで文字の位置を選び、TUNE⬆/⬇ ボタンで文字を選びます。

- 名前は 8 文字まで入力できます。

4 決定を押す

名前が記憶されます。

お知らせ

- 入力した名前を消去するには、上記の手順 1 ～ 2 を行ってから**決定**ボタンを押します。このとき TUNER EDIT ボタンを押すと入力した名前を残します。
- 放送局に名前をつけると、**表示**ボタンを押すことでその放送局の名前表示に切り換えることができます。周波数表示に戻したいときは周波数表示になるまで**表示**ボタンを押します。

iPod をつないで再生する

iPod を本機に接続して、iPod の音楽を本機で楽しめます。iPod の接続については、「iPod を接続する」（38 ページ）をご覧ください。

1 システム ⏻ **を押す**

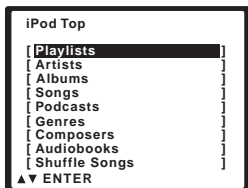
本機の電源がオンになります。
テレビの電源もオンにして、テレビの入力を本機とビデオケーブルで接続した入力に合わせてください。

2 iPod USB **を押す**

テレビ画面に **Loading** と表示され、iPod が正しく接続されているかの確認動作が行われます。

- ボタンを押したあとに **NO DEVICE** と表示された場合は、電源を切ってから本機と iPod の接続をやり直してみてください。

3 オーディオ調整 トップメニュー ◯ **を押す**

テレビ画面に iPod Top メニューが表示されます。

- iPod の画面には **Pioneer** と表示され、iPod 本体を操作することはできなくなります。

4 決定 **で再生したいカテゴリーを選んで決定する**

カテゴリーは以下の中から選びます。選んだカテゴリーのリストが表示されます。

Playlists	Genres
Artists	Composers
Albums	Audiobooks
Songs	Shuffle Songs
Podcasts	

- 前の画面に戻るには、**戻る**ボタンを押します。

5 決定 **で再生したいリスト（ジャンル、アルバムなど）を選んで決定する**

6 **手順 5 を繰り返して、聴きたい曲を再生する**

お知らせ

- **テレビとの接続を HDMI ケーブルのみで行っているときは iPod Top メニュー画面が表示されません。付属のビデオケーブル（黄）でもテレビと接続してください。（33 ページ）**
- 本機は、第 5 世代以降の iPod や iPod nano、iPod classic、iPod touch、iPhone の音声および映像に対応しています（iPod shuffle には対応しておりません）。モデルによっては一部機能が制限されます。
- iPod の映像を本機で楽しむには、別売りの専用 iPod ケーブルが必要です。（38 ページ）
- iPod のソフトウェアが古いと正常に動作しないことがあります。必ず最新のソフトウェアでお使いください。
- iPod は、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- パイオニア製品から iPod のイコライザを操作することはできません。本機に iPod を接続する前に、iPod のイコライザを「オフ」に設定することをお勧めします。
- 本機と iPod を組み合わせてご使用の際、iPod のデータに不具合が生じても、データの補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機での表示は英数字のみとなります。英数字以外の文字が iPod に記録されている場合、その文字は「＊」で表示されます。

iPod を操作する

本機のリモコンで以下の iPod の操作ができます。

ボタン	機能
►	再生を開始します。
❚❚	一時停止 / 一時停止解除します。
◄◄ ►►	押し続けている間、早戻しまたは早送りをします。
❘◄◄	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。
►►❘	次のトラックの先頭に進みます。
スリープ CH＋	リピート再生を設定します。押すたびに **Repeat One**、**Repeat All**、**Repeat Off** に切り換わります。
ミッドナイト CH－	シャッフル再生を設定します。押すたびに **Shuffle Songs**、**Shuffle Albums**、**Shuffle Off** に切り換わります。
表示	フロントパネル表示の内容を切り換えます。
◄ ►	フォルダー / ファイルリスト画面を表示中にページ送り / 戻しをします。
▲ ▼	Audiobook を再生中に再生の速さを変更します。Faster↔Normal↔Slower
戻る ST/MONO	前の画面に戻ります。

エラーメッセージについて

フロントパネル表示部にメッセージが表示された場合は、以下の操作を行ってみてください。

メッセージ	意味
iPod/USB Error 1 (I/U ERR1)	正常に通信できません。コネクターを一度外し、iPod のメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクターを接続してください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
iPod/USB Error 2 (I/U ERR2)	· 本機が対応していない iPod が接続されています。対応したモデルかどうか確認してください。(50 ページ) · iPod ソフトウェアのバージョンが古いときに表示されます。iPod のソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。
iPod/USB Error 3 (I/U ERR3)	iPod からの応答がありません。iPod のソフトウェアを最新バージョンにアップデートしてください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
No Track	iPod で選択したカテゴリー内にトラックが入っていません。他のカテゴリーを選択してください。

iPod の写真や映像を再生する

iPod に記録されている写真や映像を再生するには、iPod の操作を本機と iPod 本体とで切り換える必要があります。

- iPod の写真や映像を再生するには本機の MONITOR OUT 端子(コンポジット)からテレビに接続してください。HDMI での接続ではテレビに写真や映像を表示できません。

1 設定 ホームメニュー iPod CTRL **を押して、操作を iPod 側に切り換える**

iPod 本体で操作できるようになり、写真や映像を見ることができます。本機での操作はできなくなり、OSD 画面は表示されません。

2 設定 ホームメニュー iPod CTRL **をもう一度押して、操作を本機側に切り換える**

お知らせ

- 別売りの専用 iPod ケーブルで iPod を接続しているときのみ、iPod に記録されている写真や映像を再生することができます。
- ビデオ出力のある iPod のみ有効です。

USB メモリーを再生する

お手持ちの USB メモリーを本機に接続して、USB メモリーに記録されている音楽ファイルを本機で再生することができます。USB メモリーの接続については、「USB メモリーを接続する」（39 ページ）をご覧ください。

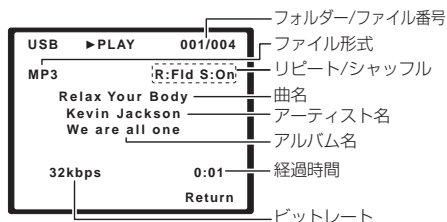
1 システム ⏻ を押す

本機の電源がオンになります。

テレビの電源もオンにして、テレビの入力を本機とビデオケーブルで接続した入力に合わせてください。

2 iPod USB ◯ を押す

テレビ画面に **Loading** と表示され、USB メモリーを読み込みます。読み込みが終了すると再生画面が表示され、自動で再生が開始されます。

- ボタンを押したあとに **NO DEVICE** と表示された場合は、電源を切ってから本機と USB メモリーの接続をやり直してみてください。

再生機能を使っていろいろな再生が可能です。詳しくは「再生機能について」（53 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- **テレビとの接続を HDMI ケーブルのみで行っているときは USB 再生画面が表示されません。付属のビデオケーブル（黄）でもテレビと接続してください。（33 ページ）**
- 本機で再生できる USB メモリーのファイルは、WMA、MP3、MPEG-4 AAC のいずれかで、著作権保護のかかっていない音楽ファイルのみです。（95 ページ）
- 本機とパソコンを USB ケーブルで接続して音楽ファイルを再生することはできません。本機が対応している USB メモリーは、外付ハードディスクや携帯フラッシュメモリー、デジタルオーディオ再生機（FAT 16、FAT 32 のフォーマットに対応）などの USB マスストレージクラスに属する機器です。
- 本機ではすべての USB メモリーの再生、および電源の供給を保証できない場合があります。また、本機と接続したことで、USB メモリーのファイルが万一損失した場合、当社は一切の責任を負うことができませんので、あらかじめご了承ください。
- 容量の大きい USB メモリーを接続したときは、読み込みに多少時間がかかることがあります。
- 本機は USB ハブには対応していません。
- 本機で再生できないファイルが選択された場合は、自動的に次の再生可能なファイルが再生されます。
- 曲のタイトルがファイルに記録されていない場合は、ファイル名が OSD 画面に表示されます。アルバム名やアーティスト名が記録されていない場合は、それらは表示されません。
- 英数字以外の文字は「＊」で表示されます。

再生機能について

リモコンで以下の USB メモリー再生操作ができます。

ボタン	機能
►	再生を開始します。
❚❚	一時停止 / 一時停止解除します。
◄◄ ►►	押し続けている間、早戻しまたは早送りをします（早戻し / 早送り中は音声がとぎれることがあります）。
I◄◄	再生中のトラックの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラックに戻ります。
►►I	次のトラックの先頭に進みます。
スリープ CH＋	リピート再生を設定します。押すたびに Repeat All、Repeat One、Repeat Folder に切り換わります。
ミッドナイト CH－	シャッフル再生を設定します。押すたびに Shuffle On、Shuffle Off に切り換わります。
表示	フロントパネル表示の内容を切り換えます。
▲▼◄►	再生中のトラックの頭出しをします（フォルダー / ファイルリスト画面を表示中はページ送り / 戻し）。
戻る ST/MONO	画面の階層を戻します。

エラーメッセージについて

フロントパネル表示部にメッセージが表示された場合は、以下の操作を行ってみてください。

メッセージ	意味
iPod/USB Error 1 (I/U ERR1)	正常に通信できません。 本機の電源を切ってから USB メモリーを外して、もう一度接続してください。
iPod/USB Error 3 (I/U ERR3)	USB メモリーからの応答がありません。 本機の電源を切ってから USB メモリーを外して、もう一度接続してください。
iPod/USB Error 4 (I/U ERR4)	USB メモリーの消費電力が大きすぎます。 本機の電源を切ってから USB メモリーを外して、もう一度接続してください。

- 本機の電源を切ってから、再度電源を入れてみてください。
- 本機の電源を切ってから USB メモリーを抜き、再度 USB メモリーを接続して電源を入れてみてください。
- BD/DVD などの他の入力に切り換えてから、再度 iPod/USB 入力にしてみてください。
- AC アダプターが付属されている USB メモリーをお使いの場合は、AC アダプターを接続して使用してみてください。

上記の操作を行っても USB ERR が表示されるときは、USB メモリーが本機に対応していません。

サラウンド再生

リスニングモードを選択する

本機には、多彩な音響効果を楽しんだり、お好みで音場補正も可能な、さまざまなリスニングモードが下図のとおり用意されています。

ボタン	リスニングモード	モードの選択肢	このような用途に適しています。
AUTO/DIRECT	**オートサラウンド/ダイレクトモード** **→55、57ページ** 入力信号に収録されたチャンネル数に応じて、再生チャンネル数を自動的に選択します。	AUTO SURROUND DIRECT PURE DIRECT	すべてのソース すべてのソース アナログ信号、PCM信号、SACD
STEREO/A.L.C.	**ステレオ/オートレベルコントロール/フロントサラウンド・アドバンスモード** **→57ページ** すべての音声信号を2.1チャンネルで再生します。 フロントサラウンド・アドバンスモードは、左右のフロントスピーカーとサブウーファーだけで自然なサラウンド再生を行います。	STEREO A.L.C. F.S.S.ADVANCE	音楽 音量差のあるソース 映画/音楽
STANDARD	**サラウンドモード** **→55ページ** いつでもサラウンド再生で楽しみたい方に適したモードです。 ※ HTP-S535は、別売りの専用スピーカーが必要です。 ※ お手持ちのアンプを使用してサラウンドバックスピーカーを接続した場合は、7.1チャンネル再生に対応したモードが選択できます。(59ページ)	**■ステレオ2チャンネル音声再生時** DOLBY PLII MOVIE DOLBY PLII MUSIC DOLBY PLII GAME NEO:6 CINEMA NEO:6 MUSIC DOLBY PRO LOGIC **■マルチチャンネル音声再生時** ストレートデコード再生になります。	 映画 音楽 ゲーム 映画 音楽 古い映画
ADV SURR	**アドバンスド・サラウンドモード** **→56ページ** 映画や音楽などのソフトのジャンルに合った音響効果を楽しめる、パイオニアオリジナルのリスニングモードです。	ACTION DRAMA ENT.SHOW ADVANCED GAME SPORTS CLASSICAL ROCK/POP UNPLUGGED EXT.STEREO	アクション映画 ドラマ ミュージカル/映画 ゲーム スポーツ クラシック ロック、ポップス アコースティック 音楽

お知らせ

- サラウンドの自動設定（42 ページ）を行っていないと、正しくリスニングモードを選択できないことがあります。
- リスニングモードやその他の機能について、入力信号や本機の設定などによっては使用できないことがあります。

音源と音声出力について

音源

ラジオや外部入力などの、本機に入力される音声を音源といいます。音源には、ステレオ音声とマルチチャンネル音声があります。

ステレオ音声

左と右の 2 チャンネル音声です。主に CD や FM ラジオ放送などで使われています。左と右が同じ音声をモノラル音声といいます。

マルチチャンネル音声

ステレオ音声より多くのチャンネルが収録された音声です。音声収録方式にはドルビーデジタルや DTS、MPEG-2 AAC などがあります。主に DVD ビデオなどで使われています。

音声出力

スピーカーから出力される音声です。本機には 2 つの音声出力があります。

ステレオ音声出力

フロントスピーカー (左 / 右の 2 チャンネル) とサブウーファー (低音専用なので 0.1 チャンネルといいます）から音声が出力されます。

サラウンド音声出力

フロントスピーカー（左 / 右の 2 チャンネル)、センタースピーカー（1 チャンネル)、およびサラウンドスピーカー（左 / 右の 2 チャンネル）の合計 5 チャンネルと、サブウーファー（0.1 チャンネル）から音声が出力されます※。音源がステレオ音声やモノラル音声でも、センターおよびサラウンドの音声を作って出力されます。

※音源によっては、サラウンドスピーカーから音声が出力されないことがあります。また、センタースピーカーからのみ音声が出力されることがあります。

オートサラウンドで再生する

AUTO SURROUND モードは、本機のさまざまな音声再生モードのなかで最も簡単に最適な再生方式を選択します。再生している音声信号を本機が自動で検出して、マルチチャンネルやステレオなど最適な再生方法を選択します。

1 再生中に AUTO/DIRECT を押す

フロントパネル表示部に **AUTO SURROUND** と表示されるまで、繰り返し押してください。次にこのモードが自動選択したデコード名称または音声フォーマット名称が表示されます。どのフォーマットが選ばれたかは、フロントパネルのデジタルフォーマットインジケーターを確認してください。（11 ページ）

お知らせ

- ステレオ 2 チャンネルの（マトリックス）サラウンドフォーマットは、**NEO:6 CINEMA** または **DOLBY PLIIx MOVIE** でデコードされます（詳しくは「サラウンドで再生する」（下記）をご覧ください）。
- **AUTO/DIRECT** ボタンでダイレクト再生機能も選択することができます。詳しくは、「ダイレクト再生機能を使う」（57 ページ）をご覧ください。

サラウンドで再生する

本機は、すべての音声をサラウンド再生することができます。ただし、スピーカーの設定や入力信号の種類によって、選択できるサラウンド再生の種類は異なります。

1 再生中に STANDARD でモードを選ぶ

Dolby Digital や DTS、ドルビーサラウンドなどのフォーマットで圧縮された信号については、適切なデコード形式が自動的に選ばれ、表示部に名称が表示されます。

ステレオ 2 チャンネル音声再生時

- DOLBY PLII MOVIE
  最大 5.1 チャンネルサラウンドで、映画に適しています。
- DOLBY PLII MUSIC
  最大 5.1 チャンネルサラウンドで、音楽に適しています。
- DOLBY PLII GAME
  最大 5.1 チャンネルサラウンドで、ゲームに適しています。
- NEO:6 CINEMA
  最大 5.1 チャンネルサラウンドで、映画に適しています。
- NEO:6 MUSIC
  最大 5.1 チャンネルサラウンドで、音楽に適しています。
- DOLBY PRO LOGIC
  4.1 チャンネルサラウンドです（サラウンドスピーカーからの音声はモノラルです）。

マルチチャンネル音声再生時

ストレートデコード再生になります。

お知らせ

- DOLBY PLII MUSIC モードでステレオ 2 チャンネル音声を聴いている場合、C.WIDTH、DIMEN.、PNRM. の 3 つの項目を調整できます。詳しくは「オーディオ調整機能を使う」（61 ページ）をご覧ください。
- NEO:6 CINEMA または NEO:6 MUSIC モードでステレオ 2 チャンネル音声を聴いている場合、C.IMG の項目を調整できます。詳しくは「オーディオ調整機能を使う」（61 ページ）をご覧ください。
- サラウンドバック用アンプを使用してサラウンドバックスピーカーを接続している場合は、7.1 チャンネルサラウンド再生が可能です。詳しくは59ページをご覧ください。

ADVANCED SURROUND モードの効果を使う

音にさまざまなサラウンド効果を加えます。お好みに応じて以下のモードを選択します。

1 再生中に ADV SURR でモードを選ぶ

- ACTION
  アクション映画などをダイナミックに再生します。
- DRAMA
  映画などのセリフを明瞭に再生します。
- ENT. SHOW
  ミュージカルなどの音楽系ソースに適したモードです。
- ADVANCED GAME
  テレビゲームに適したモードです。
- SPORTS
  スポーツ番組に適したモードです。
- CLASSICAL
  大きなコンサートホールのような臨場感で再生します。
- ROCK/POP
  ロックやポップに適したモードで、ライブ会場のような臨場感で再生します。
- UNPLUGGED
  アコースティック音楽系ソースに適したモードです。
- EXT.STEREO
  ステレオ 2 チャンネル音声をマルチチャンネル音声にして、すべてのスピーカーを使って再生します。

ステレオで再生する

STEREO は、すべての信号を 2.1 チャンネルで再生します。Dolby Digital や DTS などのマルチチャンネル信号はステレオ音声にダウンミックスされます。

A.L.C.（オートレベルコントロール）は、ポータブルデジタルオーディオプレーヤーなどに録音された音楽ソースごとの音量差を、本機で自動的に均一にしてステレオ再生します。

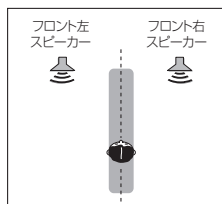
1 再生中に STEREO/A.L.C. でモードを選ぶ

- **STEREO**
  システムセットアップやミッドナイト機能、PHASE CONTROL 機能、サウンドレトリバー機能、高音／低音の調整などが反映されたステレオ再生を行います。
- **A.L.C.**
  オートレベルコントロールモードで再生します。

フロントサラウンド・アドバンス機能を使う

フロントサラウンド・アドバンスモードは、左右のフロントスピーカーとサブウーファーだけで自然なサラウンド再生を行います。

1 再生中に STEREO/A.L.C. でモードを選ぶ

- **F.S.S.ADVANCE**
  臨場感のある自然なサラウンド効果が得られます。フロントスピーカーから等距離の直線上（前後は移動可能）で視聴してください。

ダイレクト再生機能を使う

ダイレクト再生機能を使用すると、入力信号を加工せずにソースに忠実な再生を行います。

1 再生中に AUTO/DIRECT でモードを選ぶ

- **DIRECT**
  スピーカーに関するシステムセットアップ設定（スピーカーの設定、スピーカー出力レベル、スピーカーまでの距離）とデュアルモノラル音声の設定などを反映して再生します。入力信号が忠実に再生されます。
- **PURE DIRECT**
  アナログ信号や PCM 信号をデジタル処理せずにそのまま再生します。

お知らせ

- **DIRECT** モードでは他にも PHASE CONTROL 機能やアコースティックキャリブレーション EQ、サウンドディレイ、オートディレイ、LFE アッテネーター、センターイメージなどの機能も反映します。
- **PURE DIRECT** モードでは PCM 以外のソースを再生すると、再生直前にノイズが出ることがあります。この場合は DIRECT または AUTO SURROUND にすることをお勧めします。

サウンドレトリバー機能を使う

MP3 などの圧縮音声は圧縮処理される際、削除されてしまう部分が発生します。サウンドレトリバー機能では、DSP 処理によってその削除されてしまった部分を補い、音の密度感、抑揚感を向上させます。

1 システム を押してから S.レトリバー 4 を押して、サウンドレトリバー機能の ON、OFF を選択する

お知らせ

- サウンドレトリバー機能は 2 チャンネルの音声信号にのみ有効です。

アコースティックキャリブレーションEQ（周波数特性の補正）を選択する

- 工場出荷時の設定：EQ ON

サラウンドの自動設定（42ページ）で設定された周波数特性の補正のON/OFFを切り換えます。

1 再生中に［システム］を押してから［EQ 5］を押して補正のON、OFFを選択する

お知らせ

- PURE DIRECTモードのときは使用できません。

位相を合わせて音の打ち消し合いを防ぐ（PHASE CONTROL）

マルチチャンネル再生をする際、LFE(超低域)信号や各チャンネルに含まれる低音成分はサブウーファーや他の最適なスピーカーに振り分ける処理がされます。しかし、この処理には原理上、位相がズレてしまう周波数（群遅延）が発生し、低域だけが遅れて聞こえたり他のチャンネルとの干渉により低音の打ち消し合いが発生してしまうなどの問題があります。本機では、PHASE CONTROLモードをONにすることで、原音に忠実な力強い低音を再現できます。工場出荷時はONに設定されています。通常はONでのご使用をお勧めします。

位相とは2つの音波の時間的関係を表しています。2つの音波の山と山が合っている状態を位相が合っている、合っていない状態を位相がズレていると言います。

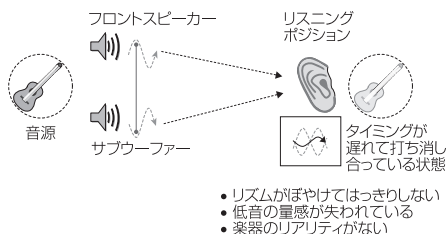
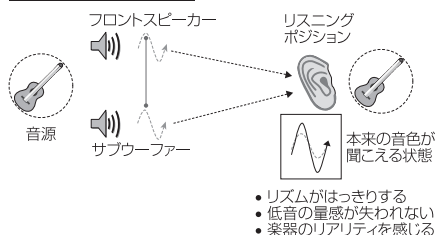
1 ［システム］を押してから［PHASE 8］を押してPHASE CONTROLモードをONにする

ボタンを押すたびに、ONとOFFが切り換わります。

PHASE CONTROL OFF

- リズムがぼやけてはっきりしない
- 低音の量感が失われている
- 楽器のリアリティがない

PHASE CONTROL ON

- リズムがはっきりする
- 低音の量感が失われない
- 楽器のリアリティを感じる

お知らせ

- スピーカーの距離を正しく設定しないと、PHASE CONTROLの効果が正しく出ない場合があります。
- PURE DIRECTモードのときはPHASE CONTROLモードをONにすることができません。

サラウンドバックスピーカー接続時の機能について

サラウンドバック用アンプを使用してサラウンドバックスピーカーを接続している場合は、7.1 チャンネルサラウンド再生が可能です。このとき、7.1 チャンネル再生に対応したリスニングモードの選択や、各種設定が可能です。

サラウンドモード

ステレオ 2 チャンネル音声再生時

- DOLBY PLIIx MOVIE
  最大 7.1 チャンネルサラウンドで、映画に適しています。
- DOLBY PLIIx MUSIC
  最大 7.1 チャンネルサラウンドで、音楽に適しています。
- DOLBY PLIIx GAME
  最大 7.1 チャンネルサラウンドで、ゲームに適しています。
- NEO:6 CINEMA
  最大 6.1 チャンネルサラウンドで、映画に適しています。
- NEO:6 MUSIC
  最大 6.1 チャンネルサラウンドで、音楽に適しています。
- DOLBY PRO LOGIC
  4.1 チャンネルサラウンドです（サラウンドスピーカーからの音声はモノラルです）。

マルチチャンネル音声再生時

- DOLBY PLIIx MOVIE
  最大 7.1 チャンネルサラウンドで、映画に適しています（サラウンドバックスピーカーを 2 本接続しているときのみ選択できます）。
- DOLBY PLIIx MUSIC
  最大 7.1 チャンネルサラウンドで、音楽に適しています。
- DOLBY DIGITAL EX
  5.1 チャンネル信号からサラウンドバックチャンネル音声を創り出し、7.1 チャンネルで再生します。6.1 チャンネル信号は加工せずにそのままデコードします。
- DTS-ES
  DTS-ES 信号をそのままデコードし、6.1 チャンネルで再生します。
- DTS NEO:6
  DTS 信号をそのままデコードし、6.1 チャンネルで再生します。

お知らせ

- サラウンドバックチャンネル処理の設定を **ON** にする必要があります。詳しくは「サラウンドバックチャンネル処理を切り換える」（60 ページ）をご覧ください。
- サラウンドバックチャンネル処理が **OFF**（60 ページ）であったり、サラウンドスピーカーの設定が **NO**（65 ページ）だったときは **DOLBY PLIIx** は **DOLBY PLII**（5.1 チャンネル）になります。
- 6.1 チャンネルサラウンドの場合、左右のサラウンドバックスピーカーからは同じ音が出ます。
- **DOLBY PLIIx MUSIC** モードでステレオ 2 チャンネル音声を聴いている場合、**C.WIDTH**、**DIMEN.**、**PNRM.** の 3 つの項目を調整できます。詳しくは「オーディオ調整機能を使う」（61 ページ）をご覧ください。
- **NEO:6 CINEMA** または **NEO:6 MUSIC** モードでステレオ 2 チャンネル音声を聴いている場合、**C.IMG** の項目を調整できます。詳しくは「オーディオ調整機能を使う」（61 ページ）をご覧ください。

サラウンドバックチャンネル処理を切り換える

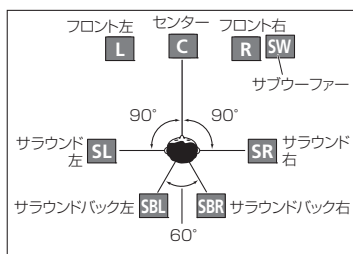
サラウンドバックスピーカーを接続しているときに、サラウンドバックチャンネル音声の処理を切り換えます。

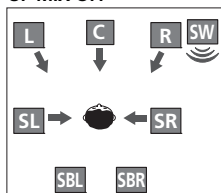
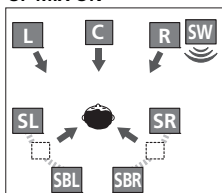
1 システム ◯ を押してから SBch処理 7 を押してサラウンドバックチャンネル処理を選択する

- SB ON
  常にサラウンドバックチャンネルへのデコード処理を付加するため、最大の出力チャンネル数でお楽しみいただけるモードです。
- SB AUTO
  入力信号の種類を検出し、サラウンドバックチャンネル信号を検出したときのみ、サラウンドバックスピーカーからデコード処理された音声を出力します。ソフトに最も忠実な再生となります。
- SB OFF
  サラウンドバックチャンネルへのデコード処理は行わず、サラウンドバックチャンネルから音声は出力されません。ただし、UP MIX 機能が ON のときはサラウンドチャンネルの音声をサラウンドバックスピーカーから出力します。

UP MIX 機能を使う

7.1 チャンネルのスピーカー配置例で、サラウンドスピーカーをリスニングポジションの真横に配置すると、5.1 チャンネルのサラウンドチャンネルの音声が真横から聞こえてしまいます。本来 5.1 チャンネルのサラウンドチャンネルは斜め後方から聞こえるように収録されているため、本機ではサラウンドチャンネル音声をサラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーでミックスし、リスニングポジションの斜め後方から出力します。

- UP MIX 機能は 7.1 チャンネルのスピーカー配置を以下の推奨図のとおりに配置したときに効果があります。

- スピーカーの配置位置や、再生している音源によっては効果が得られないこともあります。その場合はオフに設定してください。

UP MIX OFF

UP MIX ON

1 本機の電源をオフ（スタンバイ）にする

2 本体の FUNCTION ボタンを押しながら ⏻STANDBY/ON ボタンを約 2 秒間押し続ける

UPMIX:OFF と表示され、UP MIX 機能がオフになります。オンにしたいときは手順 1 ～ 2 をもう一度行います。

- UP MIX 機能をオンにすると、▦ インジケーターが点灯します。

お知らせ

- ここでの設定にかかわらず、DTS-HD 信号を再生しているときは UP MIX 機能がオンになります。
- UP MIX 機能がオンに設定されていても、入力信号やリスニングモードによっては自動でオフになることもあります。

オーディオ調整機能を使う

オーディオ調整機能でサラウンド効果の各種設定ができます。

1 システム を押してから オーディオ調整 トップメニュー を押す

2 で調整したい項目を選ぶ

各項目で調整できる内容は以下の表のとおりです。選択項目の初期値は太字で示しています。

3 必要に応じて、で設定を選ぶ

お知らせ

- 入力音声信号の種類や本機の設定の状態によっては、オーディオ調整機能が表示されない項目もあります。
- ※印が付いている項目には、設定の出現条件や制限などがあります。63 ページをご覧ください。

設定項目	内容	機能
EQ（アコースティックキャリブレーションEQ）	アコースティックキャリブレーションEQの効果をON/OFFします。	**ON**
		OFF
S.DELAY（サウンドディレイ）	音声全体の遅延時間を調整します（DVDソフトなどで、映像の動きの方がセリフなどの音声より遅れている場合、音声全体を遅らせることで、映像の動きと音声とを合わせることができます）。	0.0～9.0フレーム（0.1間隔）（1フレーム＝1/30秒（NTSC）初期値：**0.0**
MIDNIGHT（ミッドナイト）※a	サラウンド音声の映画を小音量で見るときに効果的です。音量によってその効果は調整されます。	**MID OFF**
		MIDNIGHT
S.RTV※b（サウンドレトリバー）	WMAやMP3などの圧縮音声※c は圧縮処理される際、削除されてしまう部分が発生します。サウンドレトリバー機能をONにすると、DSP処理によってその削除されてしまった部分を補い、音の密度感、抑揚感を向上させます。	**OFF**
		ON
デュアルモノラル※d	モノラルの音声チャンネルを2つ持つデジタル信号をデュアルモノラル信号といいます。ここではデュアルモノラル信号が入力されたときに再生する音声を選択することができます。デュアルモノラル信号はあまり多くはありませんが、BSデジタル放送（MPEG-2 AAC）のモノラルの二カ国語放送や音声多重放送で使用されています。 ● CH1 －チャンネル1の音声のみを再生します。 ● CH2 －チャンネル2の音声のみを再生します。 ● CH1 CH2 －両方のチャンネルの音声をフロントスピーカーから再生します。	**CH1**
		CH2
		CH1 CH2

設定項目	内容	機能
DRC（ダイナミックレンジコントロール）	ドルビーデジタルやDTS、ドルビーTrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD、DTS Master Audioなどで収録された映画の音声について、ダイナミックレンジの圧縮量を選択します。音量を下げてサラウンドを楽しむときでも、微少な音が聞き取りやすくなります。 • AUTO－ドルビーTrueHD信号に対してのみダイナミックレンジを圧縮します。 • MAX－ ダイナミックレンジを最大に圧縮します（大きな音を減少させて、小さな音を増大させます）。 • MID－ダイナミックレンジを多少圧縮します。 • OFF－ダイナミックレンジを圧縮しません（音量が大きいときは、OFFにすることをお勧めします）。	**AUTO** ※e MAX MID OFF
LFEATT（LFEアッテネーター）	ドルビーデジタルやDTS音声には、LFE（超低域音声成分）が含まれていることがあります。LFEレベルが大きくて、スピーカーからの音声に歪みが生じるときは、LFEレベルをアッテネート（減衰）します。 • LFEATT0－収録されているレベルのまま再生します（通常はこの設定をお勧めします）。 • LFEATT10－LFEレベルを10 dBアッテネート（減衰）します。 • LFEATT** － LFE音声を出力しません。	**LFEATT0** LFEATT10 LFEATT**
HDMI	HDMI INに入力された音声を、どのように再生するかを設定します。「THRU」に設定したときは本機からは音が出なくなります。 • AMP－本機に接続したスピーカーで再生 • THRU － HDMI OUTと接続したテレビで再生	**AMP** THRU
A.DLY（オートディレイ）	HDMIどうしで接続された機器に対する機能で、音声と映像の遅延時間を自動で調整し、映像の動きと音声を自動で合わせます。※f	**OFF** ON
C.WIDTH（センター幅）※g	センターチャンネルの音をフロント左／右スピーカーに振り分けて、音の調和をもたらします。0はセンタースピーカーからのみの出力で、7はセンターチャンネルの音声すべてを左右のフロントスピーカーに振り分けます。 ※ HTP-S535では効果がありません。	0～7 初期値：**3**
DIMEN.（ディメンション）※g	リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整することで広がりのある音場を創り出すことができます。+3は前方の音場が強くなり、–3は後方の音場が強くなります。 ※ HTP-S535/HTP-SB510では効果がありません。	–3～+3 初期値：**0**
PNRM.（パノラマ）※g	前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルにつなげるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。 ※ HTP-S535では効果がありません。	**OFF** ON
C.IMG（センターイメージ）※h	センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかを調整します。音色の不一致が緩和され、音楽再生に適した音場を創り出すことができます。0はほぼすべて左右のフロントスピーカーに振り分け、10は主にセンタースピーカーから再生します。 ※ HTP-S535/HTP-SB510では効果がありません。	0～10 初期値：**3** （NEO:6 MUSIC） 初期値：**10** （NEO:6 CINEMA）

※a ミッドナイト機能は、**ミッドナイト**ボタンで設定することもできます。
※b サウンドレトリバー機能は、**S. レトリバー**ボタンで設定することもできます。
※c WMA と MP3 は **iPod/USB** 入力でのみ再生できます。
※d デュアルモノラルの設定は、HDD/DVD レコーダーで録画された二カ国語放送などについては、ドルビーデジタル音声か DTS 音声をデュアルモノラルモードで録画されたもののみ有効です。
※e 初期値の **AUTO** はドルビー TrueHD 信号に対してのみ有効となります。ドルビー TrueHD 信号以外のときにダイナミックレンジコントロールを有効にしたいときは MAX か MID を選びます。
※f HDMI で接続されたリップシンク対応のディスプレイにのみ有効です。ON に設定しても音声全体の遅延時間が改善されないときは、OFF に設定して「サウンドディレイ」（61 ページ）を手動で調整してください。
※g **DOLBY PLII MUSIC** モードでステレオ 2 チャンネル音声を入力しているときのみ使用できます。
※h **NEO:6 CINEMA** または **NEO:6 MUSIC** モードでステレオ 2 チャンネル音声を入力しているときのみ使用できます。

システムセットアップ設定を行う

システムセットアップ設定では、本機のさまざまな設定を行います。

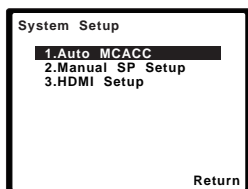
1 システム ⏻ を押す

本機の電源がオンになります。

テレビの電源もオンにして、テレビの入力を本機とビデオケーブルで接続した入力に合わせてください。

2 システム を押してから 設定 ホームメニュー を押す

テレビにシステムセットアップ画面が表示されます。

前面表示部：A. MCACC

- ↑/↓/←/→ と**決定**ボタンで、操作項目を選びます。
- **戻る**ボタンで前の画面に戻ります。
- **設定**ボタンでシステムセットアップを終了します。

3 で調整したいシステムセットアップ項目を選んで設定を行う

- Auto MCACC
  サラウンドの自動設定です。簡単に高精度な設定を行うことができます。詳しくは「サラウンドの自動設定（Auto MCACC）」（42 ページ）をご覧ください。
- Manual SP Setup
  接続しているスピーカーの本数、距離と全体的な音のバランスを設定します。詳しくは「聴感によるスピーカーの設定を行う (Manual SP Setup)」（下記）をご覧ください。
- HDMI Setup
  本機の HDMI によるコントロール機能を有効にするかどうかを設定します。詳しくは「HDMI によるコントロール機能を設定する」（69 ページ）をご覧ください。

4 設定 ホームメニュー を押してシステムセットアップを終了する

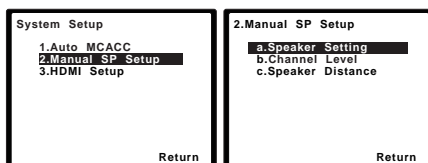
- **戻る**ボタンを数回押すことでもシステムセットアップを終了できます。

お知らせ

- **テレビを HDMI ケーブルのみで接続した場合、システムセットアップ画面は表示されませんので、付属のビデオケーブル（黄）で接続してください。（33 ページ）**
- iPod/USB 入力のときは、システムセットアップ設定を行うことができません。

聴感によるスピーカーの設定を行う（Manual SP Setup）

サラウンドの自動設定（42 ページ）で Auto MCACC を行った場合は、すでにスピーカーの設定はされていますが、必要に応じてお好みで再設定できます。

1 決定 でシステムセットアップ画面の中から「Manual SP Setup」を選択する

SP SETUP　　SP SET

システムセットアップ項目を表示するまでの手順は「システムセットアップ設定を行う」（64 ページ）をご覧ください。

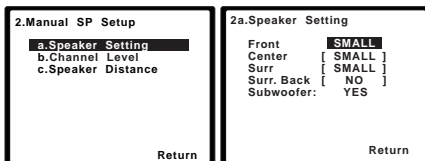
2 で調整したいシステムセットアップ項目を選んで決定する

- **Speaker Setting**
  スピーカーの接続本数を設定します。詳しくは「スピーカーの設定を行う」（下記）をご覧ください。
- **Channel Level**
  スピーカーシステム全体の出力レベルを調整します。詳しくは「スピーカー出力レベルを設定する」（66 ページ）をご覧ください。
- **Speaker Distance**
  視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定します。詳しくは「スピーカーまでの距離を設定する」（67 ページ）をご覧ください。

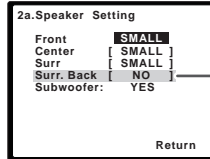
スピーカーの設定を行う

接続するスピーカーを設定することで、再生する音域を最適なチャンネルへ配分します。

- HTP-S535/HTP-SB510 のご購入時や別売りの専用スピーカー接続時に、サラウンドの自動設定（42 ページ）を行わない場合は、スピーカーの設定を必ず行ってください。

1 で Manual SP Setup の設定項目から「Speaker Setting」を選んで決定する

2 で設定したいスピーカーを選んで、で有り / 無しを選択する

通常は以下の画面のように設定を行います。

- HTP-S737/HTP-S333

お手持ちのアンプを使用してサラウンドバックスピーカーを接続する場合は、設定を変更します。

- HTP-S535

- HTP-SB510

各スピーカーは、以下のように接続の有り／無しを選択できます。

- **Front**（フロント）
  SMALL に固定され、変更できません。
- **Center**（センター）
  センタースピーカーを接続しているときは SMALL を選びます。また、接続していないときは NO を選びます。このときセンタースピーカーの音は他のスピーカーから再生されます。

- Surr（サラウンド）
  サラウンドスピーカーを接続しているときは SMALL を選びます。また、接続していないときは NO を選びます。このときサラウンドスピーカーの音は他のスピーカーから再生されます。
- Surr.Back（サラウンドバック）
  サラウンドバックスピーカーの本数を選びます（1 本または 2 本）。また、サラウンドバックスピーカーを接続していないときは NO を選びます。
- Subwoofer（サブウーファー）
  YES に固定され、変更できません。

3 戻る ST/MONO を押して終了する

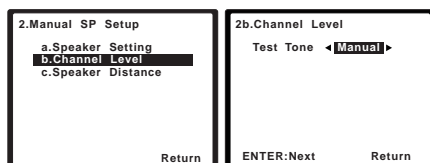
Manual SP Setup の設定画面に戻ります。

お知らせ

- HTP-S535 のみ：別売りの専用スピーカーを接続しない場合は、Center と Surr を NO に設定してください。
- HTP-SB510 のみ：別売りの専用スピーカーを接続しない場合は、Surr を NO に設定してください。
- サラウンドスピーカーが NO に設定されているときは、サラウンドバックスピーカーは自動的に NO に設定されます。
- サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ接続するときは、サラウンドバックスピーカーをアンプの L 側のスピーカー端子に接続し、本機の L（Single）端子とアンプの L 端子を接続します。

スピーカー出力レベルを設定する

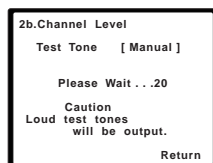
各スピーカーの出力レベルを設定することで、スピーカーシステム全体のバランスを調整します。

1 決定 で Manual SP Setup の設定項目から「Channel Level」を選んで決定する

CH LEVEL　　T.TONE M

2 で設定方法を選ぶ

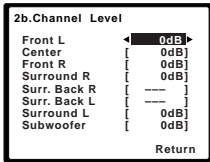
- Manual
  テストトーンを出力するスピーカーを手動で切り換えて調整します。
- Auto
  テストトーンを出力するスピーカーが自動で切り換わります。

3 設定内容を確認して 決定 を押す

音量が自動的に上がり、大きな音でテストトーンが出力されます。

PLS WAIT

4 で各スピーカーの出力レベルを調整する

Manual を選んだときは、⬆/⬇ ボタンでスピーカーを選択します。Auto を選んだときは､以下の順番でテストトーンが出力されます。

L → C → R → SR → SBR → SBL → SL → SW

L 0dB

テストトーンを聞きながら、各スピーカーの出力レベルを調整してください。

5 戻る ST/MONO を押して終了する

Manual SP Setup の設定画面に戻ります。

お知らせ

- スピーカー出力レベルは、リモコンの**システム**ボタンを押してから **CH 選択**ボタンと**レベル+ / −**ボタンを使うことで調整することもできます。また、**CH 選択**ボタンを押してから ⬆/⬇ でチャンネルを選んで ⬅/➡ で調整することもできます。
- 出力レベルを調整する際に音圧計を使用する場合は、視聴位置で測定して、各スピーカーの出力レベルを 75 dB SPL（C- ウェイト／スローモード）に調整してください。

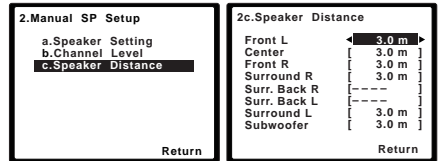
スピーカーまでの距離を設定する

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定することで、各チャンネルの遅延時間が自動的に算出され、最適なサラウンド効果を得ることができます。

1 で Manual SP Setup の設定項目から「Speaker Distance」を選んで決定する

2c.Speaker Distance

Front L	3.0 m
Center	[3.0 m]
Front R	[3.0 m]
Surround R	[3.0 m]
Surr. Back R	[----]
Surr. Back L	[----]
Surround L	[3.0 m]
Subwoofer	[3.0 m]

Return

SP DISTN　　L 3.0M

2 で設定したいスピーカーを選んで、でスピーカーまでの距離を設定する

0.1 m 間隔で調整できます。

3 戻る ST/MONO を押して終了する

Manual SP Setup の設定画面に戻ります。

HDMI によるコントロール機能

HDMI によるコントロール機能対応機器と本機を接続して、連動動作が可能になります。HDMI によるコントロール機能を ON に設定してください。

HDMI によるコントロール機能対応のパイオニア製テレビやブルーレイディスクプレーヤー、または HDMI によるコントロール機能と互換性のある他社製品などを、HDMI ケーブルで本機と接続することで、以下のような連動動作が可能になります。

- シアターモード
  テレビから本機の音量調節や消音 (ミュート) 操作
- テレビとの電源連動
- 自動入力切り換え
  テレビの入力切り換えやプレーヤーなどの再生開始による、本機の自動入力切り換え

お知らせ

- パイオニア製の機器によっては、HDMI によるコントロール機能が「KURO LINK」と表記されていることがあります。
- パイオニア製 HDMI によるコントロール機能対応機器、および HDMI によるコントロール機能と互換性のある他社製品（71 ページ）以外との連動動作は保証外です。HDMI によるコントロール機能と互換性のある他社製品であっても、すべての連動操作を保証するものではありません。
- HDMI によるコントロール機能を使うときはハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。それ以外の HDMI ケーブルでは HDMI によるコントロール機能が正しく動作しないことがあります。
- 具体的な操作や設定方法などについては、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

HDMI によるコントロール機能対応機器を接続する

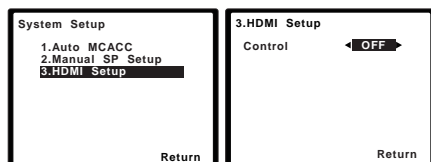
本機には HDMI によるコントロール機能対応テレビのほかに、最大 3 台の HDMI 機器を接続して連動動作させることができます。接続にはハイスピード HDMI ケーブルをご使用ください。接続方法については、「HDMI で接続する」（33 ページ）をご覧ください。接続が終わったら「HDMI によるコントロール機能を設定する」（69 ページ）を行ってください。

お知らせ

- 本機の HDMI によるコントロール機能を十分に発揮するために、HDMI 機器は本機に直接接続してください。

HDMI によるコントロール機能を設定する

本機のHDMIによるコントロール機能を有効にするかどうかを設定します。本機の設定以外にも、本機と接続するHDMIによるコントロール機能対応機器の設定も必要です。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

1 でシステムセットアップ画面の中から「HDMI Setup」を選択する

HDMI SET　　CTRL. OFF

システムセットアップ項目を表示するまでの手順は「システムセットアップ設定を行う」（64 ページ）をご覧ください。テレビを HDMI ケーブルのみで接続した場合、システムセットアップ画面は表示されませんので、付属のビデオケーブル(黄)で接続してください。(33 ページ)

2 でコントロール機能の ON/OFF を選択する

- ON
  HDMI によるコントロール機能が有効になります。
- OFF
  HDMI によるコントロール機能は無効になり、連動動作することはできません。

3 戻る ST/MONO を押して終了する

システムセットアップ設定の画面に戻ります。

連動動作を開始する前に動作確認する

接続と設定が終了したら、下記の確認作業を必ず行ってください。

1 すべての機器をスタンバイ状態にする

2 テレビ以外のすべての機器の電源をオンにする

3 テレビの電源をオンにする

4 テレビの入力を本機が接続された HDMI 入力に切り換える

5 本機の入力を HDMI 機器が接続された HDMI 入力に切り換える

6 手順 5 で選んだ HDMI 入力に接続した機器を再生する

テレビに映像が表示されることを確認します。

7 手順 5 ～ 6 を繰り返し、すべての HDMI 入力を確認する

連動中の動作について

本機と接続した HDMI によるコントロール機能対応機器は、以下のような連動動作をします。

- **シアターモード**
  - ･HDMI によるコントロール機能対応テレビのメニュー画面等でアンプから音を出すように操作すると、シアターモードにすることができます。
  - ･シアターモードのときに、本機の電源を切ることでシアターモードは解除されます。このときテレビのメニュー画面等でアンプから音を出すように操作すると、本機の電源がオンになり、再度シアターモードになります。
  - ･シアターモードのときに、テレビのメニュー画面等でテレビから音を出すように操作すると、シアターモードが解除されます。
  - ･シアターモードを解除すると、テレビで HDMI 入力またはテレビ放送を視聴していた場合、本機の電源が切れます。
- **テレビとの電源連動**
  - ･テレビの電源をスタンバイ状態にすると、本機の電源もスタンバイ状態になります。(本機に HDMI 接続されている機器の入力を選択しているときや、テレビを視聴している場合のみ。)
- **自動入力切り換え**
  - ･HDMI によるコントロール機能対応機器の再生操作に連動して、本機の入力が自動的に切り換わります。
  - ･テレビの入力を切り換えると、本機の入力が連動して切り換わります。
  - ･本機の入力を HDMI 以外に切り換えても連動動作は継続されます。

HDMI によるコントロール機能と互換性のある他社製品と接続する

本機の HDMI によるコントロール機能との互換性がある他社製テレビと接続してお使いになると、下記の連動動作ができます。(お使いのテレビによっては、すべての HDMI によるコントロール機能が働くわけではありません。)

- テレビのメニュー画面で、本機に接続したスピーカーから音を出すか、テレビのスピーカーから音を出すか、どちらかに設定できます。
- テレビのリモコンで、本機の音量調節や消音 (ミュート) 操作ができます。
- テレビの電源をスタンバイ状態にすると、本機の電源もスタンバイ状態になります。(本機に HDMI 接続されている機器の入力を選択しているときや、テレビを視聴している場合のみ。)
- テレビ放送やテレビに接続した外部入力の音声も、本機に接続したスピーカーから出力できます。(HDMI ケーブルのほかに光デジタルケーブルなどの接続が必要です。)

本機の HDMI によるコントロール機能と互換性のある他社製プレーヤーやレコーダーと接続してお使いになると、下記の連動動作ができます。

- プレーヤーやレコーダーの再生を開始すると、本機の入力がその機器を接続している HDMI 入力に切り換わります。

お知らせ

HDMI によるコントロール機能と互換性のある他社製品

- 以下の他社製テレビと互換性があります。（順不同）
  - ・シャープ製 AQUOS ファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」
  - ・パナソニック製ビエラリンク対応のテレビ
  - ・東芝製レグザリンク対応のテレビ
  - ・日立製 Wooo リンク対応のテレビ
- 以下の他社製プレーヤーやレコーダーと互換性があります。（順不同）
  - ・シャープ製 AQUOS ファミリンク対応のデジタルハイビジョンレコーダー「AQUOS ハイビジョンレコーダー」、ブルーレイディスクレコーダー「AQUOS ブルーレイ」（シャープ製 AQUOS ファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」とあわせてお使いのときのみ）
  - ・パナソニック製ビエラリンク対応のプレーヤーおよびレコーダー（パナソニック製ビエラリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
  - ・東芝製レグザリンク対応のプレーヤーおよびレコーダー（東芝製レグザリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
  - ・日立製 Wooo リンク対応のレコーダー（日立製 Wooo リンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
- **上記以外の他社製テレビやプレーヤー、レコーダーとの連動動作は保証外です。**
- **互換性のある他社製品の型名など最新の情報については、パイオニアホームページ（http://pioneer.jp/）をご覧ください。**

※ AQUOS ファミリンクは、シャープ株式会社の登録商標です。
※ その他文中の商品名、技術名および会社名等は、当社や各社の商標または登録商標です。

HDMI によるコントロール機能についてのご注意

- HDMI によるコントロール機能対応テレビの音声出力と本機の音声入力を接続し、HDMI によるコントロール機能対応テレビのリモコンでシアターモードにすることで、テレビの入力を切り換えたときなど、本機の入力が自動で切り換わり本機から音が出るようになります。このときテレビの音声は消音されます。接続は光デジタルまたはアナログのいずれかで接続してください。
- テレビやソース機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）は本機に直接接続してください。本機以外のアンプや AV コンバーター（HDMI スイッチ）などに接続してから本機に接続すると、誤動作の原因となります。
- HDMI によるコントロール機能が ON の状態で、本機の電源コードをコンセントに差し込むと本機の電源が入ります。この際、HDMI に関する初期化動作を 2 秒から 10 秒程度行います。初期化中は HDMI インジケーターが点滅します。本機の操作は点滅が終了してから行ってください。
- 本機の HDMI によるコントロール機能が ON のときは、本機の電源がスタンバイ状態であっても、HDMI によるコントロール機能対応機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）と対応テレビで接続しているときのみ、本機から音を出さずにプレーヤーからの音声と映像を HDMI を通してテレビに出力できます。このとき HDMI インジケーターが点灯します。

他機器のリモコン操作

付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器を操作できます。お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出すだけで操作できるようになります。

お知らせ

- プリセットコードを呼び出しても、すべての操作ができなかったり、まったく操作できないこともあります。
- テレビコントロールのコード（テレビ、CATV、衛星チューナーなど）はTVボタンにのみ設定することができます。

プリセットコードを呼び出す

1 システム を押しながら HDD 1 を約3秒間押し続ける

2 操作したい機器のマルチコントロールボタンを押す

プリセットコードの設定ができるマルチコントロールボタンはBD、TV、DVR、VIDEOのみです。

3 操作したい機器にリモコンを向けて、その機器に該当するメーカーコード（75ページ）を入力する

- 正しく設定されると電源オン / オフ信号がリモコンから送信され、操作したい機器の電源がオンまたはオフに切り換わります。
- メーカーコードが正しく入力されても間違って入力されても、手順2へ戻ります。
- 機器の電源がオン / オフしない場合で、その機器に別のメーカーコードがある場合は、手順2から別のコードでやり直してみてください。

4 他の機器もプリセットコードを設定したいときは手順2～3を繰り返す

5 システム を押して設定を終了する

リモコンの設定を初期化する

リモコンに設定されたすべての機能をリセットして工場出荷時に戻します。

1 システム を押しながら スピーカー 0 を約3秒間押し続ける

- 工場出荷時にボタンに割り当てられているプリセットコードは以下の通りです。

ボタン	プリセットコード
BD	2057
TV	0000
DVR	2055
VIDEO	1000

テレビの操作

本機のリモコンにプリセットコードを入力することで、他機器を操作できるようになります。詳しくは「プリセットコードを呼び出す」（72 ページ）をご覧ください。テレビを操作するときは、マルチコントロールボタンの **TV** を選択します。

設定項目	内容	機能
(テレビコントロール) ⏻	TV ボタンにプリセットコード設定した機器の電源をオン / オフします。	テレビ /CATV/ 衛星チューナー
(テレビコントロール) **入力**	映像入力を切り換えます（機種によってはできないものがあります）。	テレビ
(テレビコントロール) **チャンネル＋ / －**	チャンネルを選択します。	テレビ /CATV/ 衛星チューナー
(テレビコントロール) **音量 ＋ / －**	音量を調整します。	テレビ /CATV/ 衛星チューナー
入力機器 ⏻	テレビや CATV の電源をオン / オフします。	テレビ /CATV/ 衛星チューナー
CH ＋ / －	チャンネルを選択します。	テレビ /CATV/ 衛星チューナー
ホームメニュー	番組表を表示します。	テレビ /CATV/ 衛星チューナー
戻る	1 つ前の画面、設定に戻ります。	テレビ /CATV/ 衛星チューナー
メニュー	メニュー画面を選択します。	テレビ /CATV/ 衛星チューナー
数字ボタン	チャンネルを選択します。	テレビ /CATV/ 衛星チューナー
⬆⬇⬅➡/ 決定	メニュー画面操作時に項目の選択、調整をします。	テレビ /CATV/ 衛星チューナー
地上アナログ （シフト＋❚❚）	地上アナログ放送を選択します。	テレビ / 衛星チューナー
地上デジタル （シフト＋■）	地上デジタル放送を選択します。	テレビ / 衛星チューナー
BS（シフト＋▶）	BS デジタル放送を選択します。	テレビ / 衛星チューナー
CS（シフト＋消音）	110 度 CS デジタル放送を選択します。	テレビ / 衛星チューナー
表示	番組情報を表示します。	テレビ /CATV/ 衛星チューナー

他機器の操作

本機のリモコンにプリセットコードを入力することで、他機器を操作できるようになります。詳しくは「プリセットコードを呼び出す」（72 ページ）をご覧ください。他機器を操作するときは、プリセットコードが入力された機器のマルチコントロールボタンを選択します。

設定項目	内容	機能
入力機器 ⏻	電源をオン / オフします。	BD/DVD プレーヤー、DVR、VCR
⏮	再生中のトラック／チャプターの先頭に戻ります。続けて押すと、前のトラック／チャプターの先頭に戻ります。	BD/DVD プレーヤー、DVR
⏭	次のトラック／チャプターの先頭に進みます。続けて押すと、さらに次のトラック／チャプターの先頭に進みます。	BD/DVD プレーヤー、DVR
⏸	再生や録音／録画を一時停止します。	BD/DVD プレーヤー、DVR、VCR
▶	再生を開始します。	BD/DVD プレーヤー、DVR、VCR
⏩	早送りします。	BD/DVD プレーヤー、DVR、VCR
⏪	早戻しします。	BD/DVD プレーヤー、DVR、VCR
■	再生を停止します。	BD/DVD プレーヤー、DVR、VCR
数字ボタン	トラック番号を入力して、トラックを選択します。	VCR
	タイトル、チャプター、トラックなどの番号を入力します。	BD/DVD プレーヤー、DVR
+10 ボタン	10 以上のチャプター／トラックを選ぶときに使用します（たとえば、トラック **13** を選ぶとき、**+10** と **3** を押します）。	BD/DVD プレーヤー、DVR
決定（12）	ディスクナビ画面を表示します。	DVR
	決定ボタンとして使用します。	BD/DVD プレーヤー
表示	画面やディスプレイの表示を切り換えます。	BD/DVD プレーヤー、DVR
トップメニュー	トップメニュー画面を表示します。	BD/DVD プレーヤー、DVR
メニュー	ディスクのメニュー画面を表示します。	BD/DVD プレーヤー、DVR
←→↑↓/ 決定	メニュー画面／項目を操作します。	BD/DVD プレーヤー、DVR
ホームメニュー	ホームメニュー画面を表示します。	BD/DVD プレーヤー、DVR
CH + / −	チャンネルを選択します。	DVR、VCR
HDD（シフト + 1）	HDD/DVD/VCR レコーダーで、ハードディスク操作に切り換えます。	HDD/DVD/VCR レコーダー
DVD（シフト + 2）	HDD/DVD/VCR レコーダーで、DVD 操作に切り換えます。	HDD/DVD/VCR レコーダー
VCR（シフト + 3）	HDD/DVD/VCR レコーダーで VCR 操作に切り換えます。	HDD/DVD/VCR レコーダー
地上アナログ（シフト +⏸）	地上アナログ放送を選択します。	DVR
地上デジタル（シフト +■）	地上デジタル放送を選択します。	DVR
BS（シフト + ▶）	BS デジタル放送を選択します。	DVR
CS（シフト + 消音）	110 度 CS デジタル放送を選択します。	DVR

メーカーコードリスト

以下のメーカーコードを本機のリモコンにプリセットすることで、その機器を本機のリモコンで操作することができるようになります。

メーカーコードにあるメーカーのプリセットコードをすべて呼び出しても、メーカーや機器によっては操作できなかったり、異なるはたらきをすることがあります。

テレビ /CATV/ 衛星チューナー

メーカー / コード

パイオニア
0000, 0019, 0020, 0042, 0053
アイワ
0013
NEC
0011, 0012
LG
0033
サムスン
0021, 0022, 0023, 0024, 0025, 0026
サンヨー
0008, 0038, 0039
シャープ
0004, 0050, 0055
ソニー
0003, 0037, 0052, 0056
東芝
0005, 0047, 0048, 0049
バイ・デザイン
0014
パナソニック
0001, 0002, 0057
ビクター
0007, 0031, 0032, 0040, 0041
日立
0006, 0017, 0030, 0051, 0054
フィリップス
0018
富士通
0027, 0028, 0029
フナイ
0015, 0016
三菱
0009, 0010, 0035, 0036
その他
0034, 0043, 0044, 0045, 0046

BD/DVD/DVR/HDD レコーダー

メーカー / コード

パイオニア
2000, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2055, 2056, 2057
アイワ
2002
LG
2046
オンキヨー
2015, 2016, 2017
ケンウッド
2009
サムスン
2026, 2033
サンヨー
2027, 2028, 2029, 2030
シャープ
2010, 2011, 2012, 2050, 2051
ソニー
2031, 2032, 2043, 2044, 2045, 2047, 2048, 2049
デノン
2003, 2004, 2005
東芝
2018, 2019, 2034, 2035, 2037, 2038
パナソニック
2001, 2040, 2041, 2042
ビクター
2006, 2007, 2008, 2052, 2053
日立
2013, 2014
マランツ
2039, 2054
ヤマハ
2036

VIDEO

メーカー / コード

パイオニア
1000, 1049
アイワ
1036, 1037, 1038, 1039
NEC
1044, 1045, 1046, 1047
サンヨー
1032, 1033, 1034, 1035
シャープ
1040, 1041, 1042, 1053
ソニー
1001, 1002, 1003, 1004, 1005, 1006, 1007
東芝
1013, 1014, 1015, 1016, 1017
パナソニック
1008, 1009, 1010, 1011, 1012
ビクター
1025, 1026, 1027, 1028, 1029, 1030, 1031
日立
1018, 1019, 1020, 1043
フィリップス
1050
富士通
1048
フナイ
1043
三菱
1021, 1022, 1023, 1024
その他
1051, 1052

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら下記の項目を確認してください。また、本機と接続している機器（テレビなど）もあわせて確認してください。それでも正常に動作しないときは『保証とアフターサービス』（80ページ）をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。

症状	改善策
全般	
電源が入らない。	• 電源プラグを抜いて、もう一度差し込んでください。 • スピーカーケーブルの芯線がリアパネルに接触していないか確認してください。接触していると電源が自動的に切れます。 • 1 分間待ってから電源を入れてみてください。それでも同じ症状が繰り返されるときは、電源プラグを抜いて、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください（裏表紙参照）。
自動的に電源が切れる。	• 1 分間待ってから電源を入れてみてください。それでも同じ症状が繰り返されるときは、電源プラグを抜いて、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください（裏表紙参照）。
自動的に電源が入る、電源が切れる。入力が勝手に切り換わる。（HDMI によるコントロール機能が ON の場合）	• HDMI によるコントロール機能の連動動作です。連動動作が不要な場合は、HDMI によるコントロール機能を OFF にしてください。（69ページ）
入力切換を合わせても音声が出ない。	• 音声入力信号の選択が正しいか確認してください。詳しくは「音声入力信号を選択する」（46 ページ）をご覧ください。 • 機器が正しく接続されているか確認してください。詳しくは「本機を接続する」（30 ページ）をご覧ください。 • **消音**ボタンを押して、ミュートを解除してください。
入力切換を合わせても映像が出ない。	• マルチコントロールボタンか**入力切換**ボタンを押して、正しい入力に合わせてください。 • 機器が正しく接続されているか確認してください。詳しくは「本機を接続する」（30 ページ）をご覧ください。
FM ラジオ受信中に雑音が多い。	• アンテナを接続して最良な受信位置へ設置してください（40 ページ）。 • FM 屋外アンテナを接続してください。 • 雑音を生じさせる機器の電源を切るか、または本機やアンテナから遠ざけてください。
FM ラジオの放送局が自動的に選ばれない。	• FM 屋外アンテナを接続してください（40 ページ）。
HTP-S535/HTP-SB510 で、映画のセリフが聴こえない、サラウンド音声が聴こえない。	• 「スピーカーの設定を行う」（65 ページ）をもう一度確認してください。
センター、サラウンドまたはサラウンドバックスピーカーから音が出ない。	• リスニングモードを変更してください（54 ページ）。 • スピーカーが正しく接続されているか確認してください（14、18、22、26、41 ページ）。 • 「スピーカーの設定を行う」（65 ページ）をもう一度確認してください。 • 「スピーカー出力レベルを設定する」（66 ページ）でスピーカーの出力レベルをもう一度確認してください。
サブウーファーから音が出ない。	• 再生しているドルビーデジタルや DTS 信号の中に低音域の LFE チャンネルが含まれていない。 • 「LFEATT（LFE アッテネーター）」（62 ページ）を LFEATT0 または LFEATT10 にしてください。

症状	改善策
スピーカー設定画面の Surr. Back が NO と表示される。	● お手持ちのアンプやスピーカーをお使いください（41 ページ）。
リモコンで操作できない。	● 電池を交換してください（6 ページ）。 ● フロントパネルのリモコン受光部から 7 m、左右 30°の範囲で操作してください（6 ページ）。 ● 障害物を取り除くか、別の場所に移動させてください。 ● リモコン信号受光部に強い光が当たらないようにしてください。
ディスプレイの表示が暗い、または表示されない。	● リモコンの**ディマー**ボタンを押して、表示部の明るさを選択してください。
何らかの操作のあと、ディスプレイ表示が点滅する。	● 操作禁止を意味します。入力信号やリスニングモードによっては選択できない機能があります。
iPod/iPhone	
iPod touch/iPhone が本機で認識されない。	● 以下の操作を行ってみてください。 ① iPod touch/iPhone のスリープ／スリープ解除ボタンとホームボタンを同時に 10 秒以上押し続け、再起動します。 ② 本機の電源をオンにします。 ③ iPod touch/iPhone を本機に接続します。
USB	
USB メモリーが本機で認識されない。	● 一度電源を切ってから、再度電源を入れてみてください。 ● USB 端子に正しく接続されているかどうか確認してください。 ● USB メモリーのフォーマットが FAT16 または FAT32 かどうか確認してください。FAT12、NTFS、HFS は本機で再生することができません。 ● USB ハブには対応していません。
I/U ERR3 と表示され USB メモリーの再生ができない。	● 「USB メモリーを再生する」の「エラーメッセージについて」（53 ページ）のすべての項目を確認して、それでも **I/U ERR3** が表示されるときは、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください。
USB メモリーのファイルを再生できない。	● 著作権保護のかかった WMA や MPEG-4 AAC のファイルを本機で再生することはできません（パソコンなどで CD などの音楽データを取り込む場合、設定によっては著作権保護がかかることがあります）。 ● 再生しようとしているファイルの圧縮フォーマットに本機が対応しているかどうか確認してください（95 ページ）。
リモコンの ► ボタンを押しても USB を再生しない。	● リモコンが USB の操作モードになっていません。**iPod USB** を押してリモコンを USB の操作モードにしてください。
HDMI	
OSD 画面が表示されない。	● テレビを HDMI で接続している場合は OSD 画面は表示されません。付属のビデオケーブル（黄）で接続してください。（30 ページ）
映像と音声の両方が出ない。	● ソース機器の仕様によっては本機を通しての HDMI 接続ができない場合があります。ソース機器の仕様を確認し、非対応のときはビデオケーブル（黄）とオーディオケーブル（赤 / 白）で接続してください。 ● 本機は HDCP に対応しています。ご使用の機器が HDCP 対応かどうかをご確認ください。HDCP 非対応のときはビデオケーブル（黄）とオーディオケーブル（赤 / 白）で接続してください。
映像が出ない。	● ソース機器の設定によっては映像が表示されないビデオフォーマットが出力されることがあります。ソース機器の設定を変更するか、ビデオケーブル（黄）で接続してください。 ● ソース機器の映像が影響している可能性があります。ソース機器の解像度設定や Deep Color の設定などを調整してください。 ● 映像信号が Deep Color のとき、HDMI ケーブルが Deep Color に対応していないと映像が出ません。High Speed HDMI® ケーブルを使ってください。 ● 3D 映像信号対応機器を接続する場合は、3D 映像に対応したケーブルを使ってください

症状	改善策
音声が出ない、またはとぎれる。	● ソース機器の設定が間違っている可能性があります。ソース機器を正しく設定してください。 ● DVI 機器と接続しているときは、音声が出ません。別途音声の接続を行ってください。 ● オーディオ調整機能の HDMI 設定が「THRU」になっています。「AMP」に設定してください。（62 ページ）
HDMI によるコントロール機能でシアターモードが動作しない。	● HDMI によるコントロール機能を ON にしてください。（69 ページ） ● テレビの電源を ON してから本機の電源を ON にしてください。（69 ページ） ● テレビ側の HDMI によるコントロール機能を ON にしてください。

HDMI 接続に関するご注意

本機を経由してソース機器 (DVD プレーヤーやビデオデッキ、セットトップボックスなど) と TV(モニター) を HDMI ケーブルを使って接続すると、映像や音声が出力されないことがあります (ソース機器の仕様により、AV アンプを経由して TV に映像や音声を出力できないことがあります)。このようなときは、接続しているソース機器のメーカーにお問い合わせください。

AV アンプを経由して TV に映像や音声を出力できないソース機器をそのままお使いになるときは、下記の接続例の方法に変更すると映像や音声を出力できます。

接続例

ソース機器と TV を HDMI ケーブルで直接接続してください。

本機とソース機器を、音声ケーブルを使って接続してください。このとき TV の音量は最小にしてください。

お知らせ

- HDMI 入力端子が 1 系統の TV からは、直接接続したソース機器の映像のみ出力されます。
- ソース機器によっては、2 チャンネル音声しか出力されないことがあります (これは、ソース機器が TV の音声チャンネル数に合わせるためです)。
- ソース機器を切り換えるときは、本機と TV の入力を両方切り換えてください。
- HDMI 端子に入力される映像を TV で見るときは、TV の入力を HDMI に切り換えます。このとき TV の音量は最小に調整してください。

本機を初期化する

以下の手順で、本機のすべての設定を工場出荷時の状態に初期化します。初期化の操作はフロントパネルで行います。

1 本機の電源をオフ（スタンバイ状態）にする

2 ST/MONO ボタンを押しながら ⏻ STANDBY/ON ボタンを約 2 秒間押し続ける

3 表示部に RESET? と表示されたら、TUNE– ボタンを押す

表示部に **OK?** と表示されます。

4 TUNE+ ボタンを押す

表示部に **OK** と表示され、本機が工場出荷時の状態に初期化されたことを示します。

お知らせ

- HDMI によるコントロール機能が ON に設定されていると、本機の初期化ができない場合があります。その場合は、HDMI によるコントロール機能を OFF にするか、接続機器の電源をすべて OFF にしてから本機をスタンバイ状態にし、HDMI インジケーターが消えるのを待ってから初期化してください。
- HTP-S535 と HTP-SB510 で初期化した場合は、サラウンドの自動設定（42 ページ）またはスピーカーの設定 (65 ページ) を再度行ってください。

工場出荷時の設定一覧

設定項目	初期値	参照ページ
オーディオ調整機能		
EQ（アコースティックキャリブレーション EQ）	ON	58、61
S.DELAY（サウンドディレイ）	0.0 フレーム	61
MIDNIGHT（ミッドナイト）	MID OFF	
S.RTV（サウンドレトリバー）	OFF	57、61
デュアルモノラル	CH1	61
DRC（ダイナミックレンジコントロール）	AUTO	62
LFEATT（LFE アッテネーター）	LFEATT0 (0 dB)	
HDMI	AMP	
A.DLY（オートディレイ）	OFF	
C.WIDTH（センター幅）	3	
DIMEN.（ディメンション）	0	
PNRM.（パノラマ）	OFF	
C.IMG（センターイメージ）	3（NEO:6 MUSIC）／ 10（NEO:6 CINEMA）	
システムセットアップ設定		
スピーカーの有り無し	Front : SMALL（有り）	65
	Center : SMALL（有り）*1	
	Surr : SMALL（有り）*2	
	Surr. Back : NO（無し）	
	Subwoofer : YES（有り）	
スピーカー出力レベル	0 dB（補正無し）	66
スピーカーまでの距離	すべて 3.0 m	67
HDMI によるコントロール機能	OFF	69
その他		
入力	BD/DVD	46
デジタル入力の設定	OPTICAL IN1 : TV/SAT	46
	OPTICAL IN2 : AUX	
リスニングモード	AUTO SURROUND	54
PHASE CONTROL	ON	58
サブウーファーチャンネルレベル（低音）	0 dB	8
TREBLE（高音）	0 dB	
ディスプレイの明るさ	一番明るい	7

＊1 HTP-S535 を初期化した場合は、NO に設定してください。

＊2 HTP-S535 または HTP-SB510 を初期化した場合は、NO に設定してください。

保証とアフターサービス

保証書（別添）について

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保存してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

補修用性能部品の保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い求めの販売店へご依頼ください。ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

所在地、電話番号は裏表紙の「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に 76 ～ 78 ページの「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。それでも正常に動作しないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店または裏表紙に記載の修理受付窓口にご依頼ください。

ご連絡いただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名、型番：
  5.1 ch サラウンドシステム HTP-S737/
  5.1 ch サラウンドシステム HTP-S333/
  フロントサラウンドシステム HTP-S535/
  フロントサラウンドシステム HTP-SB510
- お買い上げ日
- 故障の状況（できるだけ具体的に）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

保証期間中は

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

お願い

修理のために本機をお持ち込みいただく際は、部分的な故障と思われる場合でもシステム全体での動作確認が必要となるため、全機器をお持ち込み願います。

長年ご使用のAV機器の点検を!

このような症状はありませんか	・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。 ・電源コードにさけめやひび割れがある。 ・電源が入ったり切れたりする。 ・本体から異常な音、熱、臭いがする。	➡	ご使用中止	故障や事故防止のため、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

K026_A_Ja

サービス拠点のご案内

サービス拠点への電話は、修理受付窓口でお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービス認定店）
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付窓口にご確認ください。

●北海道地区

受付　月〜金　9:30〜18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30〜12:00、13:00〜18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆北海道サービスセンター	FAX　011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX　0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX　0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX　0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付　月〜金　9:30〜18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30〜12:00、13:00〜18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆東北サービスセンター	FAX　022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX　023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX　024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
盛岡サービス認定店	FAX　019-656-7648	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX　017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX　0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野3-16-8
秋田サービス認定店	FAX　018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目345-1

●東京都内

受付　月〜土　9:30〜18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
世田谷サービスステーション	FAX　03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢4-25-9
北東京サービスステーション	FAX　03-3944-7800	〒170-0002	豊島区巣鴨1-9-4　第三久保ビル1F
多摩サービスステーション	FAX　042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1　エクセル立川1F

●関東・甲信越地区

受付　月〜金　9:30〜18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30〜12:00、13:00〜18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆東関東サービスセンター	FAX　047-773-9354	〒275-0016	習志野市津田沼3-20-22
水戸サービス認定店	FAX　029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
つくばサービス認定店	FAX　0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園2-2-6
☆北関東サービスセンター	FAX　048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
宇都宮サービス認定店	FAX　028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-21
群馬サービス認定店	FAX　0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号
新潟サービス認定店	FAX　025-374-5756	〒950-0982	新潟市中央区堀之内南1-20-11
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX　0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆南関東サービスセンター	FAX　045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜サービス認定店	FAX　045-348-8661	〒240-0043	横浜市保土ヶ谷区坂本町250
神奈川西サービス認定店	FAX　046-231-1209	〒243-0422	海老名市中新田4-10-53　中山ビル1F
三宅島サービス指定店　勝見電機	FAX　04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX　0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX　026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX　055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付　月〜金　9:30〜18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30〜12:00、13:00〜18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆中部サービスセンター	FAX　052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX　0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX　059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX　058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東1-1-3
静岡サービス認定店	FAX　054-236-4063	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-17-17
沼津サービス認定店	FAX　055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX　053-422-1401	〒430-0912	浜松市中区茄子町355-1
金沢サービス認定店	FAX　076-240-0550	〒920-0362	金沢市古府3-60-1　K2ビル1F
富山サービス認定店	FAX　076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX　0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆関西サービスセンター	FAX　06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
神戸サービス認定店	FAX　078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX　0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土1-126
和歌山サービス認定店	FAX　0734-46-3026	〒641-0014	和歌山市毛見1126-4
京都サービス認定店	FAX　075-644-7975	〒601-8444	京都市南区西九条森本町4　イッツアイランド1F
奈良サービス認定店	FAX　0742-36-8713	〒630-8132	奈良市大森西町21-26
福知山サービス認定店	FAX　0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国・四国地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆中四国サービスセンター	FAX　082-534-5859	〒733-0003	広島市西区三篠町2-4-22 NKビル1F
岡山サービス認定店	FAX　086-250-2724	〒700-0975	岡山市北区今3-10-10　備前ビル1F
松江サービス認定店	FAX　0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX　0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX　0857-28-8011	〒680-0934	鳥取市徳尾422-2
徳山サービス認定店	FAX　0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービス認定店	FAX　087-813-6112	〒760-0080	高松市木太町862-1
徳島サービス認定店	FAX　088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階107号
高知サービス認定店	FAX　088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX　089-911-5608	〒791-8013	松山市山越5-12-8

●九州地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

拠点	FAX	〒	住所
☆九州サービスセンター	FAX　092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-12-3
北九州サービス認定店	FAX　093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX　092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
西九州サービス認定店	FAX　0952-20-1991	〒840-0201	佐賀市大和町大字尼寺2688-1
長崎サービス認定店	FAX　095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX　096-331-3323	〒862-0918	熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店	FAX　097-551-2049	〒870-0921	大分市萩原3-23-15　日商ビル101
宮崎サービス認定店	FAX　0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1
鹿児島サービス認定店	FAX　099-201-3803	〒890-0046	鹿児島市西田3-8-24　サニーサイド21 1F

●沖縄県

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）

拠点	TEL/FAX	〒	住所
沖縄サービス認定店	TEL　098-987-1120 FAX　098-987-1121	〒902-0073	那覇市上間413　琉電アパート1-5

平成22年8月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

おもな仕様

レシーバー部（SX-SWR2）

アンプ部	（非同時駆動、JEITA）	フロント（L/R）	100 W/ch（1 kHz、10 %、4 Ω）
		センター（C）	100 W（1 kHz、10 %、4 Ω）
		サラウンド（L/R）	100 W/ch（1 kHz、10 %、4 Ω）
		サブウーファー	100 W（100 Hz、10 %、4 Ω）
FM チューナー		受信周波数	76.0 MHz ～ 90.0 MHz
		アンテナ	75 Ω不平衡型
入出力端子	HDMI	入力	19 ピン × 3
		出力	19 ピン（5 V、55 mA）× 1
	音声	入力	光デジタル（角型光ジャック）×2 同軸デジタル（RCA 端子）× 1 アナログ（RCA 端子）× 5
		出力	アナログ（RCA 端子）× 2
	映像	入力	コンポジット× 4
		出力	コンポジット×2
	サラウンドバック出力端子		アナログ（RCA 端子）× 1
	iPod/USB 端子		iPod/USB 接続用端子（5 V、500 mA）× 1
	MCACC セットアップ用マイク端子		ミニジャック × 1
サブウーファー部	型式		バスレフ式フロア型
	使用スピーカー		16 cm（コーン型）
	インピーダンス		4 Ω
	再生周波数帯域		35 Hz ～ 1000 Hz
	最大入力		100 W（JEITA）
電源部	電源電圧		AC100 V、50 Hz/60 Hz
	消費電力		69 W
	待機時消費電力（スタンバイ状態、HDMI 連動 OFF 時）		0.5 W 以下
外形寸法			230 mm × 360.5 mm × 422.5 mm （幅）×（高さ）×（奥行）
質量			11 kg
許容動作温度			＋ 5 ℃ ～ ＋ 35 ℃
許容動作湿度			5 % ～ 85 %（結露のないこと）

HTP-S737 スピーカー部（S-SWR737）

フロント / サラウンドスピーカー		
型式		密閉式フロア型 / 防磁設計（JEITA）
使用スピーカー	ウーファー	7.7 cm（コーン型）× 1
	ツイーター	2.6 cm（セミドーム型）× 1
インピーダンス		4 Ω
再生周波数帯域		62 Hz ～ 20 kHz
外形寸法		260 mm（幅）× 1097 mm（高さ）× 260 mm（奥行）
質量		3.8 kg
センタースピーカー		
型式		密閉式ブックシェルフ型 / 防磁設計（JEITA）
使用スピーカー		7.7 cm（コーン型）× 1
インピーダンス		4 Ω
再生周波数帯域		72 Hz ～ 20 kHz
外形寸法		220 mm（幅）× 90 mm（高さ）× 100 mm（奥行）
質量		0.7 kg

HTP-S535 スピーカー部（S-SWR535）

フロントスピーカー		
型式		密閉式ブックシェルフ型 / 防磁設計（JEITA）
使用スピーカー	ウーファー	5.2 cm（コーン型）× 2
	ツイーター	2.6 cm（セミドーム型）× 1
インピーダンス		4 Ω
再生周波数帯域		60 Hz ～ 20 kHz
外形寸法	スタンドなし	77 mm（幅）× 395 mm（高さ）× 55 mm（奥行）
	スタンド使用時	126 mm（幅）× 462 mm（高さ）× 126 mm（奥行）
質量	スタンドなし	1.0 kg
	スタンド使用時	1.3 kg

HTP-S333 スピーカー部（S-SWR333）

フロント / サラウンドスピーカー	
型式	密閉式ブックシェルフ型 / 防磁設計（JEITA）
使用スピーカー	6.6 cm（コーン型）× 1
インピーダンス	4 Ω
再生周波数帯域	82 Hz ～ 20 kHz
外形寸法	96 mm（幅）× 96 mm（高さ）× 96 mm（奥行）
質量	0.5 kg
センタースピーカー	
型式	密閉式ブックシェルフ型 / 防磁設計（JEITA）
使用スピーカー	6.6 cm（コーン型）× 1
インピーダンス	8 Ω
再生周波数帯域	82 Hz ～ 20 kHz
外形寸法	96 mm（幅）× 96 mm（高さ）× 96 mm（奥行）
質量	0.5 kg

HTP-SB510 スピーカー部（S-SB510）

フロント・センタースピーカー		
型式		密閉式
使用スピーカー		4 cm × 7 cm（コーン型）× 6
インピーダンス		4 Ω
再生周波数帯域		70 Hz ～ 20 kHz
外形寸法	スタンドなし	800 mm（幅）× 57 mm（高さ）× 85 mm（奥行）
	スタンド使用時	800 mm（幅）× 100 mm または 88 mm（高さ）× 102 mm（奥行）
質量	スタンドなし	1.8 kg
	スタンド使用時	1.9 kg

お知らせ

- 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ご注意

- 本機は一般家庭用機器として作られたものです。一般家庭用以外（たとえば飲食店等での営業用の長時間使用、車両、船舶への搭載使用）で使用し、故障した場合は、保証期間内でも有償修理を承ります。

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の方々への危害や財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示したりする内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告

異常時の処置

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。

- 万一、内部に水や異物等が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 万一、本機を落としたり、カバーを破損した場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置

- 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重いものを載せたり、コードが本機の下敷きになったりしないようにしてください。コードの上を敷物などで覆うと、気づかずに重いものを載せてしまうことがあります。重いものを載せるとコードが傷ついて、火災・感電の原因となります。

- 放熱をよくするため、他の機器や壁等から間隔をとり、ラックに入れる場合はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
  →あおむけや逆さまにする。
  →押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
  →じゅうたんやふとんの上に置く。
  →テーブルクロスなどをかける。

- 本機の上に火がついたろうそくなどの裸火を置かないでください。火災の原因となります。

使用環境

- この機器に水が入ったり、ぬれたりしないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

- 風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 表示された電源電圧（交流 100 ボルト 50 Hz/60 Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この機器を使用できるのは日本国内のみです。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法

- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

- ぬれた手で（電源）プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

・本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

・本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

・電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店に交換をご依頼ください。

・雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠注意

設置

・電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

・電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

・ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

・本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

・テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

・本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

・本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)

・電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

・電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

・移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。

・本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは 2 人以上で行ってください。

・窓を閉め切った自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。

- 旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示 (プラス (＋) マイナス (−) の向き) に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、漏れた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検

- 5 年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

付録

使用上のご注意

設置する場所

- 組み合わせて使用するテレビやステレオシステムの近くの安定した場所を選んでください。
- テレビやカラーモニターの近くに本機を設置しないでください。また、カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器とは離して設置してください。

⚠ 注 意

本機を設置する場合には、壁から10 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から10 cm以上、背面から10 cm以上、側面から10 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

次のような場所は避けてください

- ・直射日光のあたる所
- ・湿気の多い所や風通しの悪い所
- ・極端に暑い所や寒い所
- ・振動のある所
- ・ホコリの多い所
- ・油煙、蒸気、熱があたる所（台所など）

本機の使用環境温度範囲は5 ℃～35 ℃、使用環境湿度は85 %以下(通風孔が妨げられていないこと)です。
風通しの悪い所や湿度が高すぎる場所、直射日光(または人工の強い光)の当たる場所に設置しないでください。

D3-4-2-1-7c_Ja

上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。

熱を受けないように

本機をアンプなど熱を発生する機器の近くに設置しないでください。

本機を使わないときは電源を切る

テレビ放送の電波状態により、本機の電源を入れたままテレビをつけると画面にしま模様が出る場合がありますが、本機やテレビの故障ではありません。このような場合は本機の電源を切ってください。ラジオの音声の場合も同様にノイズが入ることがあります。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

製品のお手入れについて

- 磨き布や乾いた布で、表面のほこりや汚れを拭き取ってください。
- 表面が汚れているときは、中性洗剤を水で５～６倍に薄めたものに柔らかい布を浸してよく絞って、汚れを拭き取り、乾燥した布でから拭きします。家具用のワックスや洗剤は使用しないでください。
- 製品の表面がさびることがありますので、シンナー、ベンジン、殺虫剤などを製品にかけたり、製品の近くで使用しないでください。

技術資料

デジタル音声フォーマットについて

DVD やブルーレイディスクソフトのパッケージには以下のような表示がされていることがあります。1 枚のディスクに複数の音声が収録されている場合が多く、どの音声を聴くかを選択することができます。（音声の選択方法はお手持ちのプレーヤーやディスクによって異なります。）

1. 英　語（5.1ch サラウンド）
2. 日本語（ドルビーサラウンド）
3. 英　語（DTS 5.1ch サラウンド）

収録音声数　　録音方式　　音声記録方式

ドルビーデジタルは DVD の標準音声フォーマットであるため、単に「5.1ch サラウンド」と記載されている場合は、「ドルビーデジタル（5.1ch)」であることを示します。

デコードとは
デジタル信号処理回路などにより、圧縮記録されたデジタル信号を、もとの信号に変換させる技術です。また、2ch の音源をマルチ ch 化させる演算技術をマトリックス・デコードと言い、5.1ch 信号を 6.1ch に伸長させる技術もデコードと呼ぶことがあります。

ドルビー

DOLBY TRUEHD

高音質

入力信号	サラウンドの名称	デコード方式	特徴
HD コンテンツ	＊ Dolby TrueHD ＊ Dolby Digital Plus	ディスクリート	高精細音声技術。HDMI ケーブルで伝送可能。特に Dolby TrueHD は、ロスレス符号化技術により最高音質を実現。
5.1ch（サラウンドバック ch フラグ付）	Dolby Digital Surround EX	ディスクリート＋マトリックス	サラウンドバック ch を使用して、Dolby Digital よりも臨場感を高めた方式
5.1ch ディスクリート	Dolby Digital	ディスクリート	DVD 以降の代表的フォーマット
一般的な 2ch ドルビーサラウンド	(Dolby Surround) Dolby ProLogic (IIx)	マトリックス	すべてのステレオ信号に対応する万能なサラウンド技術

＊これらの音声は 8 チャンネル以上のチャンネル数をサポートしていますが、現在ブルーレイディスクおよび HD DVD のそれぞれの規格では、最大音声チャンネル数が 8 チャンネルに制限されています。

詳細な情報はドルビーラボラトリーズのホームページをご覧ください。
http://www.dolby.co.jp/

プロロジック IIx 製品は、プロロジック IIx の持つさまざまな機能を、選択して搭載することが可能です。プロロジック IIx 搭載、とキャッチフレーズされた商品でも、必ずしもまったく同じ機能を持っているとは限らないことにご注意ください。

DTS

高音質 入力信号	サラウンドの名称	デコード方式	特徴
HD コンテンツ	· DTS-HD Master Audio · DTS-HD High Resolution Audio	ディスクリート	高精細音声技術。HDMI ケーブルで伝送可能。特に DTS-HD Master Audio は、ロスレス符号化技術により最高音質を実現。
5.1ch（サラウンドバック ch フラグ付）	· DTS-ES (Matrix/Discrete)	ディスクリート ＋マトリックス	サラウンドバック ch を使用して、臨場感を高めた方式
5.1ch ディスクリート	· DTS (Surround) · DTS 96/24	ディスクリート	DVD 以降の代表的フォーマット
一般的な 2ch ドルビーサラウンド	· Neo:6	マトリックス	すべてのステレオ信号に対応する万能なサラウンド技術

詳細な情報は DTS のホームページをご覧ください。
http://www.dtsjapan.co.jp/

WMA

外装箱に印刷された、Windows Media ™のロゴは、本機が WMA データの再生に対応していることを示しています。

WMA とは、「Windows Media Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。本機では Windows Media Player によってエンコードされた、拡張子が「.wma」の WMA ファイルを再生することができます。ただし、著作権保護のかかったファイルやエンコードする Windows Media Player のバージョンによっては再生できないことがあります。

MPEG-2 AAC

MPEG-2 オーディオの標準方式の1 つで、BS デジタルや地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。高圧縮率ながら高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

■米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5,297,236	5,481,614	5,490,170
5,848,391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

MPEG-4 AAC

AAC とは、「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG-2、MPEG-4 で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。AAC データは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。本機では、iTunes によってエンコードされた、拡張子が「.m4a」の AAC ファイルを再生することができます。ただし、著作権保護のかかったファイルやエンコードする iTunes のバージョンによっては再生できないことがあります。

iTunes は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

iPod/iPhone について

「Made for iPod」および「Made for iPhone」とは、それぞれiPodあるいはiPhone専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。

アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

iPodは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

HDMI について

HDMI(High-Definition Multimedia Interface)とは1本のケーブルで映像と音声を受信するデジタル伝送規格です。ディスプレイ接続技術のDVI(Digital Visual Interface)を家庭向けのオーディオ機器用にアレンジしたものであり、高い帯域幅のデジタル内容保護(HDCP)を実現した次世代テレビ向けのインターフェース規格です。
本機では、HDMI対応機器とHDMI対応のテレビなどを接続することで、圧縮されていないデジタル映像と音声(ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、またはリニアPCM)を1本のケーブルで伝送できます。ドルビー TrueHDやDTS-HD Master Audioなどのロスレスデジタル音声フォーマットにも対応しています。
本機はHDMI機器との接続を目的として設計されています。DVI機器に接続した場合、DVI機器によっては正常に動作しない場合があります。
本機は高画質規格のDeep Color出力やx.v.Colorの伝送も可能です。

入力端子の対応フォーマット

各入力端子で対応している音声フォーマットは以下のとおりです。

<table>
<tr><td>入力端子</td><td>対応音声フォーマット</td></tr>
<tr><td>デジタル(光/同軸)</td><td>Dolby Digital、DTS、MPEG-2 AAC、PCM(サンプリング周波数:
32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz)</td></tr>
<tr><td>HDMI</td><td>Dolby Digital、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS、DTS-EXPRESS、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、MPEG-2 AAC、2ch から最大8ch までのリニア PCM デジタル信号(サンプリング周波数:
32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz)、SACD(DSD 2 ch 信号)、ビデオ CD、スーパービデオ CD、DVD オーディオ (192 kHz 含む)</td></tr>
<tr><td>iPod/USB(USB メモリー再生時)</td><td>
<table>
<tr><td>種別</td><td>拡張子</td><td>ストリーム</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">MP3</td><td rowspan="4">.mp3</td><td rowspan="4">・MPEG-1/2/2.5
オーディオレイヤー3</td><td>サンプリング周波数</td><td>8 kHz～48 kHz</td></tr>
<tr><td>量子化ビット数</td><td>16 bit</td></tr>
<tr><td>チャンネル数</td><td>2 ch</td></tr>
<tr><td>ビットレート</td><td>8 kbps～320 kbps</td></tr>
<tr><td rowspan="4">WMA</td><td rowspan="4">.wma</td><td rowspan="4">・WMA8/9
(WMA9 Proやロスレスコーディングには対応していません)</td><td>サンプリング周波数</td><td>32 kHz、44.1 kHz</td></tr>
<tr><td>量子化ビット数</td><td>8 bit、16 bit</td></tr>
<tr><td>チャンネル数</td><td>2 ch</td></tr>
<tr><td>ビットレート</td><td>32 kbps～192 kbps</td></tr>
<tr><td rowspan="4">AAC</td><td rowspan="4">.m4a</td><td rowspan="4">・MPEG-4 AAC
(アップルロスレスコーディングには対応していません)</td><td>サンプリング周波数</td><td>11.025 kHz～48 kHz</td></tr>
<tr><td>量子化ビット数</td><td>16 bit</td></tr>
<tr><td>チャンネル数</td><td>2 ch</td></tr>
<tr><td>ビットレート</td><td>16 kbps～320 kbps</td></tr>
</table>

著作権保護のかかったファイルは再生できません。
本機が対応している形式のファイルでも再生できないことがあります。
可変ビットレート(VBR)で圧縮されたファイルも再生できますが、経過時間が正しく表示されないことがあります。
接続している機器の種類やソフトウェアのバージョンによって働かない機能があります。
MPEG Layer-3 音声復号化技術は、Fraunhofer IIS および Thomson multimedia からライセンスされています。

</td></tr>
</table>

付録

さくいん

本機を操作するときの主な用語や表示をまとめました。
参照ページに進むと、それぞれに関連する情報があります。

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

アルファベット

<各窓口へのお問い合わせの時のご注意>
「0120」で始まる フリーコールおよび フリーコールは、携帯電話・PHSなどからは、
ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■家庭用オーディオ/ビジュアル商品　0120－944－222　一般電話　044－572－8102

■ファックス　044－572－8103

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付窓口

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　0120－5－81028（ゴーハイオニア）　一般電話　044－572－8100

■ファックス　0120－5－81029

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/repair.html
※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービス認定店（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098－987－1120

■ファックス　098－987－1121

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　0120－5－81095　一般電話　044－572－8107

■ファックス　0120－5－81096

平成22年8月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.040

パイオニア株式会社　〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

<5707-00000-458-0S>